

# 公益社団法人日本看護科学学会

## 平成27年度6月定例(定時)社員総会 議事録

日時 : 平成27年(2015年)6月21日(日) 11:00~13:30

場所 : AP 東京八重洲通り

〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目10番7号 KPP八重洲ビル11階

総社員数 : 264名

出席社員数 : 230名(会場122名、委任状108名)

会場出席者 : 社員(代議員)

會田信子、青山ヒフミ、秋元典子、朝倉京子、麻原きよみ、阿曾洋子、足立久子、阿部正子、天野瑞枝、荒尾晴恵、荒木暁子、荒木美香子、飯田苗恵、飯野京子、池松裕子、石井邦子、石垣靖子、石橋みゆき、井上智子、岩瀬信太、岩永喜久子、植田喜久子、上野栄一、上野恭子、浦田秀子、江川隆子、遠藤俊、遠藤みどり、太田喜久子、大津廣子、大西文子、小笠原知枝、岡本玲子、掛田崇寛、叶谷由佳、鎌倉やよい、亀井智子、萱間真美、河口てる子、河原宣子、北素子、北村愛子、木下由美子、荃津智子、グレッグ美鈴、小坂橋喜久子、洪愛子、河野あゆみ、国府浩子、小島操子、小林たつ子、小松万喜子、小山真理子、近藤潤子、近藤浩子、佐々木幾美、定方美恵子、佐藤紀子、佐藤富美子、真田弘美、志自岐康子、正野逸子、新道幸恵、須釜淳子、杉浦太一、鈴木久美、鈴木志津枝、祖父江育子、高田早苗、高橋眞理、高見沢恵美子、多喜田恵子、武田淳子、武田祐子、武村雪絵、田中京子、谷本真理子、田村やよひ、近田敬子、寺町芳子、泊祐子、中木高夫、中村恵子、中村美鈴、中山洋子、成田伸、西田直子、西村ユミ、野村陽子、乗松貞子、籠持知恵子、鳩野洋子、東サトエ、日高艶子、平松知子、廣瀬規代美、深田順子、深堀浩樹、福島道子、藤原千恵子、古瀬みどり、古田加代子、法橋尚宏、本庄恵子、本田育美、牧野智恵、増島麻里子、松浦和代、松浦賢長、三国久美、水野恵理子、宮子あずさ、宮崎美砂子、村嶋幸代、百瀬由美子、森菊子、森田夏実、安酸史子、山本則子、吉沢豊予子、吉田久美子、吉田千文、吉田俊子、良村貞子、和住淑子、渡邊タミ子、綿貫成明(以上113名・50音順)

理事 田村やよひ、安酸史子、高橋眞理、和住淑子、麻原きよみ、萱間真美、グレッグ美鈴、小坂橋喜久子、武田祐子、中山洋子、宮崎美砂子、吉沢豊予子

監事 近藤潤子、小島操子

議長 : 田村やよひ(理事長)

議事録作成者 : 高橋眞理(総務理事)

### I. 開会

開会時、会場出席社員数109名、有効委任状108名、総計217名であり、全代議員264名の過半数であるため、定款第23条、第24条に定められた要件を満たしており、公益社団法人日本看護科学学会 平成27年度6月定例社員総会は成立した。

司会は安酸史子副理事長、記録は書記:大田康江(順天堂大学)、鈴木紀子(順天堂大学)で行なわれた。

### II. 理事長挨拶

田村やよひ理事長より、以下の挨拶があった。

代議員選挙後、初めての社員総会であり、代議員数は264名となり、学会が大きくなっていることを実感している。

本日の審議事項は、平成26年度事業報告および決算の承認、ならびに今期理事会は本日で任期満了となるため、次期役員選任案となっている。また名誉会員候補者として理事会より3名を推薦しているのでご審議いただきたい。

また、名誉会員の中西先生が亡くなられたことが報告され、出席者全員で黙祷を行なった。

### III. 第35回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

小山眞理子学術集会会長より、以下の挨拶があった。

平成27年12月5日（土）6日（日）に広島国際会議場、アステールプラザ、広島市文化交流会館にて開催される。演題数は最終1046題。今後査読依頼予定している。代議員には、座長のご協力、学会の盛り上げをお願いしたい。また、会場施設が限られているので、今後学術集会の運営方法について詳細を検討していく。

### IV. 議長指名および議事録署名人の承認

定款第22条3項に従い、田村理事長が議長に選出された。

出席者から議事録署名人を募ったが、立候補がなかったため、議長より代議員の中村恵子氏、吉田俊子氏の2名が推薦され、満場一致により承認された。

### V. 報告事項

#### 1. 理事会および社員総会活動状況 <田村理事長>

議案書（pp3-9）に基づき、田村理事長より6回の理事会および1回の書面理事会、社員総会の活動状況の報告がなされた。

#### 2. 総務報告 <高橋理事>

議案書（p10）に基づき、高橋理事より会員数の推移について説明がなされた。

- ・平成26年3月31日付 正会員数 7612名
- ・平成27年3月31日付 正会員 8035名 + 名誉会員 13名 + 賛助会員 5件 = 計 8053名

#### 3. 選挙管理委員会報告 <高橋理事>

代議員選出規程ならびに役員候補者選出規程により、各選挙が資料（p11）のとおり行われたこと、代議員選挙および役員候補者選挙は、Webを利用した電子投票方式を用いて行ったことが説明された。

代議員選挙では、Web投票率は18.9%～29.7%（13地区平均21.7%）であった。（前回のマークシート方式投票では39.5%）開票立会人有森直子氏のもと開票され、平成27年2月27日を就任日として264名の代議員を選出し、その結果をすみやかにホームページに掲載した。

役員候補者選挙では、投票率は71.2%（理事）、67.0%（監事）で前回と同様の投票率を得ることができた。開票立会人安梅勅江氏のもと開票され、平成27年5月10日に理事会に提出された。

#### 4. 平成26年度事業報告

##### (1) 第34回日本看護科学学会学術集会開催 <高橋理事>

第34回日本看護科学学会学術集会は、平成26年11月29日（土）、30日（日）に名古屋国際会議場で開催された。参加者総数3,827人、演題数882題であったとの報告がなされた。

##### (2) 第35回・第36回日本看護科学学会学術集会準備 <高橋理事>

第35回日本看護科学学会学術集会は、小山眞理子学術集会会長のもと平成27年12月5日（土）から6日（日）の2日間、広島国際会議場、アステールプラザ、広島市文化交流会館にて開催予定であるとの報告があった。

第36回日本看護科学学会学術集会は、平成28年12月10日（土）から11日（日）の2日間、東京国際フォーラムにて開催予定であるとの報告があった。

### **(3) 和文誌の発行 …電子ジャーナル (J-Stage) 十年 1 回合本版 <萱間理事>**

議案書 (pp14-15) に基づき、電子ジャーナル (J-stage) が 4 月 1 日よりオープンアクセスへ完全移行となったこと、平成 26 年度掲載論文は計 40 編であったこと、投稿数増加に伴い、専任査読委員を増員したこと、査読ガイドラインについて課題があることが報告された。

また、編集作業における出版社のミスによるトラブルが発生したため、出版社と再発防止策を協議した。

### **(4) 英文誌の発行 …電子ジャーナル (Wiley) <グレッグ理事>**

議案書 (p15) に基づき、Holzemer 編集長来日のもと対面での編集委員会および Web 会議システムを用いて編集委員会を開催したこと、平成 26 年の論文投稿数は 237 本であったこと、Optional open access が可能となるように投稿規程を改定したこと、平成 26 年に優秀賞および奨励賞を受賞した JJNS に掲載された論文各 1 編をフリーアクセスとしたこと等が報告された。

また、JANS34 の English session 発表者に対して若手研究者支援事業への応募をメールにて促した。本事業は平成 26 年度より開始し、2 編の支援対象論文を決定した。

平成 27 年投稿分より、日本人の非会員の投稿も可能とし、非会員の場合は、11 ページを超過すると、1 ページにつき 10,000 円を徴収することとなった。

JJNS セミナー (Improving Your Success at Publishing in English in 2014) は好評であった。次回は大阪で開催することが決定している。

### **(5) 看護学学術振興対策**

#### **① 看護学学術用語の検討 <小坂橋理事>**

議案書 (p16) に基づき報告がなされた。

継続的な学術用語検討システムの組織案を検討し確認した。

#### **② 国際活動の推進 (世界看護科学学会を含む) <中山理事>**

議案書 (pp16-17) に基づき報告がなされた。

異文化データベースの見直しと国際看護に関わる専門職のネットワーク形成を目的として、JANS34 において English session を開催し好評に終わった。この討論を今後のデータベースの検討に生かしていきたいと考えている。

第 1 回グローバルセミナーを 12 月 1 日に開催し、活発な討論が行われた。看護学のスタンダードや国際活動のあり方については次年度の調査に向けて準備中である。

第 4 回 WANS 学術集会は、平成 27 年 10 月 14 日～17 日にドイツの Hannover にて開催予定である。Web での抄録募集により約 200 題の抄録の登録があった。

#### **③ 看護倫理の検討と啓発**

議案書 (p17) に基づき報告がなされた。

##### **看護倫理検討委員会 <麻原理事>**

学術活動の利益相反に関する指針、および同細則、さらに利益相反に関する Q&A を作成し、理事会の承認を得た。

##### **研究倫理審査委員会 <田村理事長>**

1 件の申請があった。簡易審査に該当したため、メール会議にて承認をした。

#### **④ 研究成果の蓄積と活用 <吉沢理事>**

看保連に参加し、研究助成募集のお知らせを会員に提供した。看保連の研究助成に当該学会から助成研究の 1 名推薦を行い、推薦研究が採択されたとの報告があった。

### **(6) 学術研究論文の表彰 <宮崎理事>**

2013 年に発行された和文誌 33 巻、英文誌 vol. 10 を対象とし、議案書 (p 17) に記載の選考プロセスに従い、優秀賞 2 編、奨励賞 2 編が決定されたことの報告があった。詳細は議案書 (p18) 参照。

## (7) 学会組織の強化・発展

### ①若手研究者育成のための新規事業 <吉沢理事>

若手研究推進委員設置の打ち合わせを2回開催し、若手研究推進委員会を常設委員会として設置したこと、若手研究者の緩やかなネットワークとして JANS 若手の会が発足していることの報告があった。

### ②JANS セミナー <吉沢理事>

第4回・5回 JANS セミナーを開催し、多くの参加者を得、第5回においては Web 参加も企画したとの報告があった。

### ③学術振興事業の検討 <田村理事長>

2年間の時限委員会として活動をし、活動報告をまとめ、本日の第2回理事会にて承認されたとの報告があった。

### ④学会誌の電子化

議案書(pp14-15)のとおり。

### ⑤選挙の電子化

議案書(p11)のとおり。

### ④委員会等の遠隔会議システムの導入 <田村理事長>

一部 Web 会議システムを導入して理事会、委員会を行ったと報告があった。

## (8) 社会貢献活動 <武田理事>

市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェの企画を中心に、メーリングリストを活用して審議を重ね活動した。平成26年11月30日に開催した市民フォーラムおよびナーシング・サイエンス・カフェは、どちらも好評に終了した。

平成27年度 JANS35 における企画に向けて、文部科学省の後援申請に時間を要するため今後の課題事項として検討したいとの報告があった。

## (9) 広報活動 <酒井理事>

議案書(p20)の内容が代読された。※欠席により理事長代読

## (10) 災害看護支援事業（日本看護系学会協議会との共同事業による）<山本理事>

議案書(pp20-22)の内容が代読された。※欠席により安酸副理事長により代読

## (11) 他機関との連携活動

### ① 日本看護系学会協議会 <安酸副理事長>

平成26年6月30日に総会に理事長が出席した。一般社団法人化の承認が得られ、定款および定款施行細則、役員選出規定等の原案の説明があり意見交換を行った。

平成26年12月15日の臨時社員総会にて一般社団法人への移行が承認された。

第3回国連防災世界会議パブリックフォーラムへの参加呼びかけがあった。

JANS34 のシンポジウムでは、共催団体として支援した。定款施行細則の承認のための臨時社員総会の連絡を受け、議決権行使書に署名と押印をし、提出した。

### ② 看護系学会等社会保険連合 <吉沢理事>

平成26年度は理事会7回、社員総会1回、看護技術検討委員会3回、診療報酬および介護報酬のあり方に関する検討員会3回が開催された。

「平成27年度介護報酬改定に関する要望書」を作成し8月13日に厚生労働省に提出された。

平成28年度診療報酬改定に向けた意向調査を実施した。平成30年度の診療報酬・介護報酬同時改定に向けた検討も視野に入れる必要性を確認した。

### ③ 日本学術会議 <安酸副理事長>

日本学術会議ニュース・メールを役員に提供したとの報告があった。

#### ④ その他の機関 <安酸副理事長>

山上の光賞の「看護・保健部門」に川嶋みどり氏を推薦し、全体で80余名の応募の中から受賞が決定され、5月12日に授賞式が行われた旨の報告があった。

#### (12) 平成27年選出代議員選挙実施、平成27年選出役員候補者選挙準備 <高橋理事>

これまで平成26年、27年で計6回委員会を実施したとの報告がなされた。

#### 【質疑応答】

特に質問はなかった。

### VI. 審議事項

#### 1. 平成26年度決算の承認および会計監査の報告 <和住理事>

議案書(pp24-38)に基づき、数値の読み上げおよび説明があった。主な内容は以下のとおりである。

<貸借対照表>p24

資産合計113,283,169円、負債合計24,612,513円、基金を含む正味財産合計88,670,656円であった。正味財産は前年度に比べて増加している。

<貸借対照表内訳>p25

貸借対照表を「公益目的事業会計」「収益事業等会計」「法人会計」に分類した表となっている。

<正味財産増減計算書>pp26~27

先ほどの貸借対照表の正味財産の部の詳細を表したものである。

##### I 一般正味財産増減の部

(1) 経常収益 受け取り会費「正会員受取会費」80,360,000円であり約400万円増であった。事業収益「学会誌収益」988,370円であり約215万円減であった。これは学会誌のWeb化、オープンアクセス化に伴う収益減である。事業収益「広告販売収益」6,933,600円であり約600万円減であった。これは学術集会での企業広告であり年度によって変動が大きいものである。

(2) 経常費用 事業費 「印刷製本費」12,097,652円であり約250万円増であった。これは講演集にかかった費用の増額である。「支払助成金」4,710,000円であり、ここに災害看護支援事業の助成費が含まれる。

##### II 指定正味財産増減の部

「一般正味財産への振替額」1,210,000円は上記支払助成金に振り替えたもので、災害看護支援事業に使用された。

##### III 基金増減の部

増減なしの72,926,624円であった。

##### IV 正味財産期末残高

88,670,656円であり、前年度より約293万円の増であった。

<正味財産増減計算書内訳表>pp28-29

正味財産増減計算書を「公益目的事業会計」「収益事業等会計」「法人会計」に区分した表となっている。

「正会員受取会費」の配分比率は、公益目的事業：法人会計＝3：7から5：5の間で理事会にて決定できるように定款施行細則が変更となったが、平成26年度は5：5の比率で決算した。

収益事業等会計の「広告販売事業」において当期経常増減額5,786,589円であったが、公益目的事業会計の当期経常増減額は9,977,185円の赤字だったため、収益事業等会計より5,417,183円を振り替えている。これにより法人税額は0円、都民税均等割の70,000円の納税となった。

法人会計の当期一般正味財産が8,330,653円増となっている。法人会計に一千万円単位の

黒字を残すような会計処理は公益法人会計において望ましくないとされるが、今期は問題ないと思われる。

＜財務諸表に対する注記＞pp30-31

特定資産は用途が定められた資産であり、選挙積立、退職給付引当資産、災害看護支援資産がある。平成26年度は前年度に積立てた災害支援準備資金を取り崩して災害看護支援事業を行った。

＜財産目録＞pp32-33

資料のとおり。

＜平成26年度収支計算書＞pp34-36

予算差異の大きい項目には注釈をつけているのでご参照いただきたい。

＜災害看護支援事業収支報告書＞pp37-38

前年度繰越4,986,251円、平成26年度収入(寄附)442,187円、支出(助成)合計4,710,000円。災害支援口座残高718,438円であった。

災害看護支援事業の在り方については、今後日本看護系学会協議会と検討していく。

＜監査報告＞p39

近藤潤子監事、小島操子監事より監査報告書に基づき報告がなされた。

＜独立監査人の監査報告＞pp40-41

田村理事長より独立監査人の監査報告書について代読がなされた。

## 【質疑応答】

○会費配分率3：7の振り分けについて伺いたい。また、特定資産準備資金として350万円を積立てる際、災害事業以外にはどのようなものがあつたのか。

→(和住理事) 当年度の会計においては特定資産準備資金として積立てる必要はなかつた。350万円を積立てたのは平成25年度決算においてであつた。

昨年度において広告販売事業の当期経常増減額が1000万円を超えた。当時の受取会費の配分率は定款施行細則の改正により4：6としていたが、4：6としても公益目的事業の赤字幅が少なく、収益事業等会計の収益を公益目的事業に全額振り替えることができない状況となり、法人税が課税されることが判明したため、特定資産準備資金として積立てることを理事会で決定した。

これをきっかけに、広告販売事業で得た収益を公益目的事業に効果的に使用できるように、受取会費配分率を定める定款細則を再度改正した。

(田村理事長) その年度に出た利益の使用に関して、長期的基盤安定に向けての検討は今後していく必要があると考える。また、3：7とは、公益目的事業を3、法人会計を7ということである。

350万円を特定資産準備資金とする決議を行った同時期に、災害看護支援事業専門委員会で助成申請者の選定を行っており、助成金の資金不足について理事会に相談があつた。災害支援事業に特定資産準備資金を使うことに異議はなかつたため、全額を災害支援事業に使用した。

○監査報告書および独立監査人の監査報告書には、押印がみられないが、その手続きの確認をさせていただきたい。

→押印の書類は事務所で保管している。

○押印したものを印刷提示していただきたい。

→今後そのようにしていく。

○昨年度および一昨年度の税金の額を教えてください。

→昨年度、一昨年度とも都民税(均等割)の7万円であつた。

平成26年度決算は異議なく承認された。

## 2. 役員選任案の承認

理事、監事選任案についてマークシート記入にて信任投票が行われた。

集計の結果、すべての候補者について、出席した代議員の過半数の以上の賛成を得られ、役員選任案は承認された。

### 3. 定款変更案の承認

資料に基づき説明され、審議の結果、挙手121名、委任状108名、合計229名の賛成を得た。総社員の3分の2以上の賛成を得られたので、定款変更案は承認された。

### 4. 名誉会員の承認

名誉会員として金川克子氏、川嶋みどり氏、前原澄子氏3名が、理事会より推薦され、異議なく承認された。

## VII. その他

○田村理事長より和文誌オープンアクセス化および学会誌の有料化（今年度6000円）について以下の説明がされた。

和文誌の発行は、国際文献社との契約により発行している。電子ジャーナル化は平成25年の定時社員総会で方針が決定され、その方針で進めてきた。平成26年度は全論文を冊子体として会員にお送りした。平成27年度以降は完全に電子ジャーナルになるため、26年春先に、平成27年度以降、冊子体が必要かどうかの調査を行った。冊子体が必要との回答は37%であった。必要発行部数の検討を国際文献社と行い価格の交渉を行ったが、6,000円以下にする交渉は成立しなかったため、理事会はこれを受け入れ、会員へアナウンスをした。実質的に会費増になるのではないかとの意見が代議員よりあったことをお伝えする。交渉の結果である状況をご理解いただきたい。

本会ではこの4年間、電子ジャーナル化やオープンアクセス化は会員にとってのメリットも大きいと考え推進してきた。また、これらのことは定款第10条3項に定めている会員の権利に抵触しないことを法律の専門家に確認している。ご理解をいただきたい。

○時代を反映し、電子化の選定は理解できるが、確実に平等に会員に届くことが前提である。第35回学術集会のお知らせ一斉メールが、1週間から10日要する現状の事例があった。電子化のチェック体制を要請したい。

→次期理事会に引き継ぎたい

○和文誌の発行において国際文献社とのトラブルはどのようなものだったのか？

→（萱間理事）研究報告の種別で採択となった論文について、編集事務委託先出版社が、著者に原著論文として校正刷りを送った。著者は、オンライン査読上では、研究報告であったが、印刷された原著論文としてもものが送られてきたので原著論文であると思ったとのことであった。オンライン掲載の直前に編集担当者が気づき、著者に種別の間違いを通知した。しかし、すでに出版社から著者にオンライン掲載前に別刷りが届いてしまっており、混乱が深まった。出版社からのこの間の経緯の連絡は十分でなく、編集委員会が状況を把握し、著者への対応をするのがさらに遅れた。

対応として、出版社から編集委員長に対して今回のミスについて文書で報告を受け、今後の対策を検討依頼した。著者に対しては、査読で指摘された部分を再度修正してもらい、編集委員長が再査読を2回行って原著として掲載した。編集について依頼内容が遵守されないことが他にもあり、その後理事会において出版社の変更を決議し、移行作業を進める予定である。

○第5回JANSセミナーのWeb参加において、6月30日で締め切る理由、Web参加の方法をご教示いただきたい。

→（吉沢理事）今回初めての取り組みであった。Web参加に関しては学習ニーズに合っていたということで評判がよかったので、今後も取り組んでいきたい方向性を掲げた。エンドレスにやっていくわけはいけないので、3か月ということで6月30日とした。会場参加した方にもパスワードを提供し3か月閲覧できるようにした。申し込みはホームページである。

会場費、web機材が必要であり、半日コースの場合は参加費ではまかなえない。1日コースで

は運営できるかもしれないので、今後検討していきたい。

以上をもって、すべての議事が終了したので、平成27年6月定例社員総会が閉会し、議事進行が議長（田村理事長）から司会に戻された。

## VIII. 閉会

司会の安酸副理事長より、最終的な会場出席者数 122名、有効委任状 108名、合計 230名である旨が報告された。

この議事録が正確であることを証するため、議長および議事録署名人により以上の議事を認め記名押印する。

平成27年（2015年）6月21日

議 長 田 村 やよひ ⑩

議事録署名人 中 村 恵 子 ⑩

議事録署名人 吉 田 俊 子 ⑩

# 公益社団法人日本看護科学学会 平成27年6月定例社員総会 議案書

日 時 平成 27 年 (2015 年) 6 月 21 日 (日) 11:00~13:30 (予定)  
場 所 AP 東京八重洲通り  
〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目10番7号 KPP八重洲ビル11階  
Tel. 03-6228-8109

## 【議事次第】

- I. 開会
- II. 理事長挨拶
- III. 第35回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶
- IV. 議長指名および議事録署名人の承認
- V. 報告事項
  1. 理事会および社員総会活動状況
  2. 総務報告
  3. 選挙管理委員会報告
  4. 平成 26 年度事業報告
    - (1) 第 34 回日本看護科学学会学術集会開催
    - (2) 第 35 回・第 36 回日本看護科学学会学術集会準備
    - (3) 和文誌の発行 …電子ジャーナル (J-Stage) 十年 1 回合本版
    - (4) 英文誌の発行 …電子ジャーナル (Wiley)
    - (5) 看護学学術振興対策
      - ① 看護学学術用語の検討
      - ② 国際活動の推進 (世界看護科学学会を含む)
      - ③ 看護倫理の検討と啓発
      - ④ 研究成果の蓄積と活用
    - (6) 学術研究論文の表彰
    - (7) 学会組織の強化・発展
      - ① 若手研究者育成のための新規事業
      - ② JANS セミナー
      - ③ 学術振興事業の検討
      - ④ 学会誌の電子化
      - ⑤ 選挙の電子化
      - ⑥ 委員会等の遠隔会議システムの導入
    - (8) 社会貢献活動
    - (9) 広報活動
    - (10) 災害看護支援事業 (日本看護系学会協議会との共同事業による)
    - (11) 他機関との連携活動
      - ① 日本看護系学会協議会
      - ② 看護系学会等社会保険連合
      - ③ 日本学術会議
      - ④ その他の機関
    - (12) 平成 27 年選出代議員選挙実施、平成 27 年選出役員候補者選挙準備
- VI. 審議事項
  1. 平成26年度決算の承認および会計監査の報告
  2. 役員選任案の承認
  3. 定款変更案の承認
  4. 名誉会員の承認
- VII. その他
- VIII. 閉会

# 公益社団法人日本看護科学学会 役員・社員

(平成 27 年 5 月 10 日現在)

理事長 田村 やよひ

副理事長 安酸 史子

第 35 回学術集会会長 第 36 回学術集会会長 第 37 回学術集会会長  
小山真理子 岡谷 恵子 吉沢豊予子

理事：麻原きよみ、萱間 真美、グレッグ美鈴、小坂橋喜久代、酒井 郁子、  
高橋 真理、武田 祐子、中山 洋子、宮崎美砂子、山本あい子、  
吉沢豊予子、和住 淑子

監事：小島 操子、近藤 潤子

名誉会員：飯田澄美子、稲岡 文昭、氏家 幸子、薄井 坦子、兼松百合子、小玉香津子  
中島紀恵子、林 滋子、樋口 康子、日野原重明、松野かほる、山崎 智子

賛助会員：(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、ヌーヴェルヒロカワ、  
(株)へるす出版

(以上、五十音順)

## 社員

### 【北海道】

石垣 靖子  
稲葉 佳江  
大日向 輝美  
河口 てる子  
河原田まり子  
荃津 智子  
中村 恵子  
松浦 和代  
三国 久美  
矢野 理香  
山田 律子  
良村 貞子

### 【東北】

朝倉 京子  
一戸 とも子  
遠藤 芳子  
小野 幸子  
工藤 せい子  
佐藤 富美子  
塩飽 仁  
武田 淳子  
武田 利明  
原 玲子  
布施 淳子  
古瀬 みどり  
眞壁 玲子  
宮下 光令  
吉沢 豊予子  
吉田 俊子

### 【関東A】

飯田 苗恵  
岩永 喜久子  
上野 恭子  
内田 陽子  
角田 直枝  
金子 昌子  
加納 尚美  
川口 孝泰  
神田 清子  
近藤 浩子  
佐藤 正美  
佐藤 由美  
鈴木 純恵  
中村 美鈴  
成田 伸  
春山 早苗

廣瀬 規代美  
福島 道子  
森 千鶴  
横山 京子  
吉田 久美子

### 【関東B】

青木 きよ子  
荒木 暁子  
荒木田美香子  
石井 邦子  
石橋 みゆき  
太田 喜久子  
大塚 眞理子  
叶谷 由佳  
黒田 久美子  
黒田 裕子  
酒井 郁子  
坂上 明子  
佐藤 紀子  
佐藤 まゆみ  
諏訪 さゆり  
田高 悦子  
谷本 眞理子  
手島 恵  
長江 弘子  
野地 有子  
正木 治恵  
眞嶋 朋子  
増島 麻里子  
宮崎 美砂子  
宮脇 美保子  
森 恵美  
吉田 千文

### 【東京A】

麻原 きよみ  
泉 キヨ子  
井上 智子  
井部 俊子  
及川 郁子  
上別府 圭子  
亀井 智子  
萱間 眞美  
齋藤 やよい  
眞田 弘美  
武村 雪絵  
田代 順子  
永田 智子

西村 ユミ  
深堀 浩樹  
堀内 成子  
前田 樹海  
丸 光恵

森田 夏実  
山本 則子

### 【東京B】

秋山 正子  
飯野 京子  
柏木 公一  
香春 知永  
川野 雅資  
北 素子  
洪 愛子  
佐々木 幾美  
佐藤 紀子  
志自岐 康子  
高田 早苗  
武田 祐子  
鶴田 恵子  
野末 聖香  
福井 トシ子  
本庄 恵子  
宮子 あずさ  
守田 美奈子  
谷津 裕子  
吉田 みつ子  
綿貫 成明

### 【甲信越】

浅川 和美  
阿部 正子  
遠藤 みどり  
小林 たつ子  
小林 康江  
定方 美恵子  
清水 嘉子  
水野 恵理子  
渡邊 タミ子  
渡辺 みどり

### 【北陸】

稲垣 美智子  
上野 栄一  
川島 和代  
紺家 千津子  
須釜 淳子  
平松 知子

牧野 智恵

### 【東海】

會田 信子  
足立 はるゑ  
足立 久子  
天野 瑞枝  
池松 裕子  
岩瀬 信夫  
太田 勝正  
大津 廣子  
大西 文子  
岡田 由香  
門間 晶子  
鎌倉 やよい  
紙屋 克子  
北山 三津子  
黒江 ゆり子  
小島 操子  
小松 万喜子  
杉浦 太一  
鈴木 みずえ  
多喜田 恵子  
深田 順子  
古田 加代子  
本田 育美  
村本 淳子  
百瀬 由美子  
柳澤 理子  
山内 豊明  
山田 紀代美

### 【近畿A】

青山 ヒフミ  
阿曾 洋子  
荒尾 晴恵  
安藤 幸子  
上野 昌江  
江川 幸二  
小笠原 知枝  
北村 愛子  
工藤 美子  
グレッグ美鈴  
河野 あゆみ  
坂下 玲子  
佐藤 禮子  
清水 安子  
鈴木 久美  
鈴木 志津枝

高見沢恵美子  
田中 京子  
泊 祐子  
檜木野 裕美  
簾持 知恵子  
早川 和生  
林 優子  
藤原 千恵子  
法橋 尚宏  
増野 園恵  
町浦 美智子  
松田 宣子  
森 菊子  
山本 あい子

### 【近畿B】

江川 隆子  
遠藤 俊子  
岡山 寧子  
桂 敏樹  
我部山キヨ子  
河原 宣子  
北島 謙吾  
小板橋喜久代  
田村 恵子  
中木 高夫  
西田 直子  
任 和子  
野村 陽子  
若村 智子

### 【中国・四国】

秋元 典子  
池添 志乃  
植田 喜久子  
岡本 玲子  
雄西 智恵美  
掛田 崇寛  
國方 弘子  
小山 眞理子  
佐伯 由香  
島内 節  
新道 幸恵  
祖父江 育子  
竹崎 久美子  
田中 マキ子  
近田 敬子  
津島 ひろ江  
時長 美希

中西 純子  
中野 綾美  
中山 洋子  
西田 真寿美  
乗松 貞子  
深井 喜代子  
藤田 佐和  
保科 英子  
南 裕子  
宮腰 由紀子  
宮下 美香  
森本 美智子  
森山 美知子  
山勢 博彰

### 【九州・沖縄】

宇佐美しおり  
宇都 由美子  
浦田 秀子  
大池 美也子  
岡崎 美智子  
奥 祥子  
小野 ミツ  
嘉手苺 英子  
木下 由美子  
金城 芳秀  
国府 浩子  
佐藤 香代  
正野 逸子  
田中 美智子  
堤 由美子  
寺町 芳子  
中尾 久子  
鳩野 洋子  
東 サトエ  
日高 艶子  
藤崎 郁  
藤田 君支  
前田 ひとみ  
松浦 賢長  
松尾 ミヨ子  
三重野 英子  
村嶋 幸代

以上、264名  
地区別  
五十音順

# 公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

## 平成26年度第1回理事会

日時：平成26年5月18日（日） 13:00～17:30

場所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）

出席者：理事11名（Web参加1名）、監事2名、第34回学術集会会長

### 〈確認事項〉

平成25年度第6回理事会議事録

平成25年度3月書面理事会議事録

### 〈報告および審議事項〉

1. 第34回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第35回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 平成26年6月定例社員総会について
  - 1) 平成26年社員総会資料、決算報告、監査報告の確認および承認
  - 2) 役割分担シナリオの確認
4. 総務会からの提案および審議事項
  - 1) 新名誉会員の推薦について
  - 2) 代議員の辞任等による、次点者の繰り上げ就任について
  - 3) 選挙に関する各種規程変更案の承認
  - 4) 選挙管理委員の委嘱
  - 5) 平成25年度決算の事業活動収入について
    - ① 公益目的事業積立金計上のための規程案の承認
    - ② 会費配分率に関する規程変更案の承認
  - 6) 外部講師への謝金規程変更案の承認
  - 7) 退職金規程変更案の承認
5. 第4回JANSセミナー（6月29日）の準備状況
6. 各委員会における今年度予算執行状況
7. 各委員会における事業の進捗状況
  - 1) 総務委員会
  - 2) 和文誌編集委員会
  - 3) 英文誌編集委員会
  - 4) 研究・学術情報委員会
  - 5) 国際活動推進委員会
  - 6) 看護学学術用語検討委員会
  - 7) 看護倫理検討委員会

- 8) 社会貢献委員会
- 9) 表彰論文選考委員会
- 10) 広報委員会
- 11) 研究倫理審査委員会
- 12) 災害看護支援事業専門委員会
- 13) 学術振興事業検討委員会
- 14) 他団体との連携について
  - ・ 日本看護系学会協議会、日本学会協議、その他の機関
  - ・ 看護系学会等社会保険連合（看保連）

8. 入会希望者の承認
9. その他

### 平成 26 年度第 2 回理事会

日 時：平成 26 年 6 月 29 日（日） 10：00～11：00

場 所：ベルサール神田（東京都千代田区神田美土代町 7 住友不動産神田ビル 3F）

出席者：理事 13 名、監事 1 名、

#### 〈確認事項〉

平成 26 年度第 1 回理事会 議事録

#### 〈報告および審議事項〉

1. 第 34 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 内閣府による立ち入り検査（運営組織、事業活動）の報告
3. 社員総会資料と役割分担シナリオの最終確認
4. 各委員会における事業の進捗状況
5. 入会希望者の承認
6. その他

### 平成 26 年度第 3 回理事会

日 時：平成 26 年 9 月 7 日（日） 13：00～17：00

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 12 名、監事 1 名、第 34 回学術集会会長、第 35 回学術集会会長、選挙管理委員会委員長

#### 〈確認事項〉

平成 26 年度第 2 回理事会議事録

平成 26 年 6 月定例社員総会議事録

#### 〈報告および審議事項〉

1. 第 34 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 35 回日本看護科学学会学術集会の準備状況

3. 第37回日本看護科学学会学術集会の候補者選出
4. 平成26年度代議員選挙および平成27年選出役員候補者選挙
5. 「代議員及び役員候補者選出に関する申し合わせ」変更案の承認
6. 11月社員総会の議事次第（案）  
\* 平成26年11月社員総会の開催について  
（欠席者の議決権の行使方法について）
7. 第34回学会総会の議事次第（案）
8. 第4回JANSセミナーの実施報告
9. 各委員会における今年度予算執行状況
10. 各委員会における事業の進捗状況
11. 入会希望者の承認
12. その他

#### 〈連絡事項〉

1. 委員会活動報告および活動計画・予算案の提出について
2. 2014年11月／学術集会開催時期の各会議について

### 平成26年度第4回理事会

日時：平成26年10月13日（日） 13:00～17:00（予定）

場所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）

出席者：理事14名（Web参加2名）、監事1名、第34回学術集会会長

#### 〈確認事項〉

平成26年度第3回理事会議事録

#### 〈報告および審議事項〉

1. 第34回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第35回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 第37回日本看護科学学会学術集会会長の承認
4. 「会計に関する申し合わせ」の変更案の承認
5. 各委員会における平成27年度事業計画と平成27年度予算案の承認
6. 11月社員総会の議事次第（案）とシナリオ確認
7. 第34回学会総会の議事次第（案）とシナリオ確認
8. 各委員会における事業の進捗状況
9. 入会希望者の承認
10. その他

#### 〈連絡事項〉

- JANS34 関連出張／出欠・宿泊希望の一覧

## 平成 26 年度第 5 回理事会

日 時：平成 26 年 11 月 28 日（金） 14：00～15：30

場 所：ANA クラウンプラザホテル グランコート名古屋 6階 おしどり（名古屋市中区金山町 1-1-1）

出席者：理事 13 名、監事 2 名、第 34 回学術集会会長

### 〈確認事項〉

平成 26 年度第 4 回理事会議事録

### 〈報告および審議事項〉

1. 第 34 回学術集会会長からの報告
2. 定款施行細則の改正について（「若手研究推進委員会」の新設）の承認
3. 平成 27 年度役員候補者選挙における理事候補者の「理事会が定める定数」の決定
4. 平成 26 年 11 月社員総会資料の最終確認
5. 社員総会／議事進行および役割分担の最終確認
6. 第 34 回学会総会資料の最終確認
7. 学会総会／議事進行および役割分担の最終確認
8. 各委員会における事業の進捗状況
9. 入会希望者の承認
10. その他

## 平成 26 年度第 6 回理事会

日 時：平成 27 年 2 月 11 日（日） 13：00～17：10

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 11 名、監事 1 名、第 34 回学術集会会長、第 35 回学術集会会長

### 〈確認事項〉

平成 26 年度第 5 回理事会議事録

平成 26 年 12 月書面理事会議事録

平成 26 年 11 月社員総会議事録

第 34 回学会総会議事録

### 〈報告および審議事項〉

1. 第 34 回 日本看護科学学会学術集会（JANS34）の最終報告
2. 第 35 回 日本看護科学学会学術集会（JANS35）の準備状況
3. 役員候補者（理事、監事）選挙公示（案）
4. 「学術集会開催に関する申し合わせ」の改正案の承認
5. 6 月定例社員総会の議事次第（案）  
\*平成 27 年 6 月定例社員総会の開催について  
（欠席者の議決権の行使方法について）
6. 各委員会における今年度予算執行状況

7. 各委員会からの報告および審議事項
8. 総務会からの報告
  - 1) 総務正職員の新規採用について
  - 2) 学会運営の効率化について
9. 入会希望者の承認
10. その他

〈連絡事項〉

委員会事業報告および経費支払伝票の提出について（平成 26 年度 6 月定例社員総会の資料として）

**書面理事会**

日 時：平成 27 年 3 月 10 日（火）

（理事会の決議があったものとみなされた日：平成 27 年 3 月 20 日）

出席者：理事 14 名

〈議案〉

日本看護系学会協議会役員選挙における被選挙人推薦についての承認

# 公益社団法人日本看護科学学会 社員総会報告

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

## 平成 26 年 6 月社員総会

日 時 平成 26 (2014) 年 6 月 29 日 (日) 11:30～14:00

場 所 ベルサール神田

東京都千代田区神田美土代町 7 住友不動産神田ビル 3F TEL:03-5281-3053

総社員数: 202 名

出席社員数: 156 名 (うち委任状 86 名)

- I. 開会
- II. 理事長挨拶
- III. 第34回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶
- IV. 議長指名および議事録署名人の承認
- V. 報告事項
  1. 理事会および社員総会活動状況
  2. 総務報告
  3. 選挙管理委員会の委嘱
  4. 平成25年度事業報告
    - (1) 第 33 回日本看護科学学会学術集会開催
    - (2) 第 34 回・第 35 回日本看護科学学会学術集会準備
    - (3) 和文誌の発行
    - (4) 英文誌の発行
    - (5) 看護学学術振興対策
      - ① 看護学学術用語の検討
      - ② 国際活動の推進 (世界看護科学学会を含む)
      - ③ 看護倫理の検討と啓発
      - ④ 研究成果の蓄積と活用
    - (6) 学術研究論文の表彰
    - (7) 学会組織の強化・発展
      - 1) 将来構想に基づく新たな事業計画
        - ・ 若手研究者育成のための新規事業
        - ・ 学術振興事業検討委員会の設立
        - ・ 学術振興事業の実施 (JANS セミナー等)
      - 2) 財務基盤安定化に向けての取り組み
        - ・ 学会誌の電子化準備
        - ・ 選挙の電子化
        - ・ 委員会等の遠隔会議システムの導入
        - ・ 受取会費配分率の変更
    - (8) 社会貢献活動
    - (9) 広報活動
    - (10) 災害看護支援事業 (日本看護系学会協議会との共同事業による)
    - (11) 他機関との連携活動
      - ① 日本看護系学会協議会
      - ② 看護系学会等社会保険連合
      - ③ 日本学術会議
      - ④ その他の機関
    - (12) 理事選挙
- VI. 審議事項
  1. 平成25年度決算の承認および会計監査の報告
  2. 定款施行細則変更案 (会費配分率の変更案) の承認
  3. 名誉会員の承認
- VII. その他
- VIII. 閉会

## 平成 26 年 11 月社員総会

日 時 平成 26 年 11 月 29 日（土）17：30～20：00

場 所 ANA クラウンプラザホテル グランコート名古屋 5 階 ローブルーム II

名古屋市中区金山町 1-1-1 TEL: 052-683-4111

総社員数：202 名

出席社員数：147 名（うち委任状 88 名）

### I. 開会

### II. 理事長挨拶

### III. 第34回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

### IV. 議長指名および議事録署名人の承認

### V. 報告事項

#### 1. 理事会報告および社員総会報告

#### 2. 総務報告

#### 3. 委員会活動報告

##### 1) 総務委員会

##### 2) 和文誌編集委員会

##### 3) 英文誌編集委員会

##### 4) 研究・学術情報委員会

##### 5) 国際活動推進委員会（世界看護科学学会を含む）

##### 6) 看護学学術用語検討委員会

##### 7) 看護倫理検討委員会

##### 8) 社会貢献委員会

##### 9) 表彰論文選考委員会

##### 10) 広報委員会

##### 11) 研究倫理審査委員会

##### 12) 災害看護支援事業専門委員会

##### 13) 学術振興事業検討委員会

##### 14) 他機関との連携活動

###### ① 日本看護系学会協議会

###### ② 看護系学会等社会保険連合

###### ③ 日本学術会議

###### ④ その他の機関

##### 15) 選挙管理委員会

### VI. 審議事項

#### 1. 平成27年度事業計画案の承認

#### 2. 平成27年度予算案の承認

#### 3. 第37回日本看護科学学会学術集会会長の承認

### VII. 閉 会

# 総務報告

## 1. 会員推移（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

### 1) 正会員数増減

#### ①平成26年4月1日正会員数

7,184名＝平成26年3月31日正会員数7,612名 － 平成26年度資格喪失者428名  
 （自主退会178名、会費未納 250名）

#### ②平成26年度の入会者

852名＝新規入会749名 ＋ 再入会103名

#### ③平成26年度の死亡喪失者 1名

2) 賛助会員増減 なし

3) 名誉会員増減

平成26年度承認 1名 中西 睦子

4) 平成27年3月31日現在 会員数

正会員 8,035

名誉会員 13

賛助会員 5

会員総数 8,053

山崎智子 松野かほる 氏家幸子 兼松百合子 林滋子  
 飯田澄美子 日野原重明 稲岡文昭 樋口康子 薄井坦子  
 中島紀恵子 小玉香津子 中西睦子  
 (株)医学書院 (株)へるす出版 (株)南江堂  
 (株)日本看護協会出版会 (有)ヌーヴェルヒロカワ

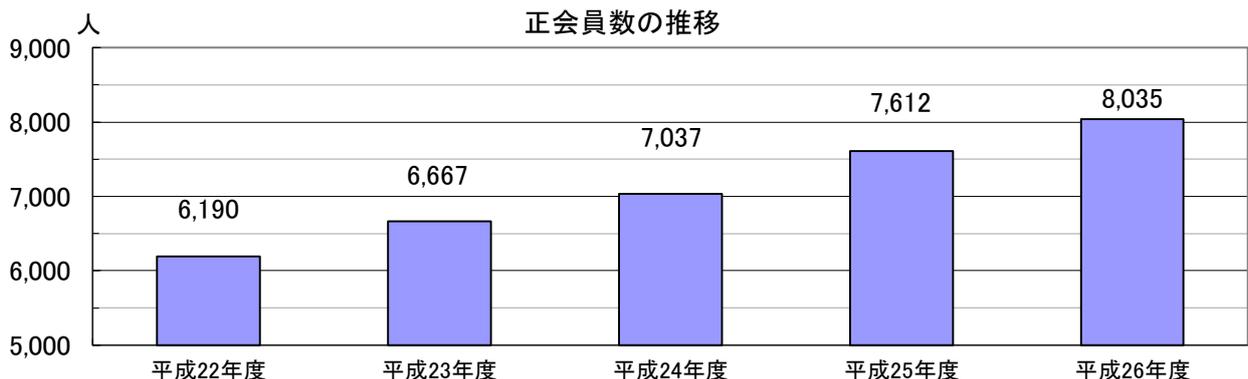
## 2. 地区別正会員数（平成27年5月1日現在 会員数 7,556名）

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数		
北海道	北海道	333	北陸	富山	47	九州・沖縄	福岡	384		
				石川	110		佐賀	44		
東北	青森	117	東海	福井	50		長崎	50		
				岩手	43		熊本	71		
				宮城	127		大分	55		
				秋田	57		宮崎	56		
				山形	59		鹿児島	45		
				福島	38		沖縄	86		
関東A	茨城	109	近畿A	大阪	457	宛先不明者		27		
				兵庫	405	合計	7,556			
				栃木	98			滋賀	101	
				群馬	130			京都	206	
埼玉	248	奈良	85							
関東B	千葉	330	近畿B	和歌山	25					
				神奈川	451	鳥取	26			
東京A	※1	548	中国・四国	島根	61					
				岡山	159					
東京B	※2	623		広島	227					
				山口	53					
甲信越	新潟	97		徳島	63					
				長野	97	香川	73			
				山梨	81	愛媛	63			
						高知	137			

※1 千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、口島しよ、海外

※2 渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域口

## 3. 正会員数の推移（年度別）



## 選挙管理委員会報告

選挙管理委員 高木廣文（委員長）、野口眞弓（副委員長）、岡美智代、桑名佳代子、二宮啓子

代議員選出規程ならびに役員候補者選出規程に則り、下記のとおり各選挙を行った。なお、本選挙は、Web を利用した電子投票（以下、Web 投票）方式を用いている。

### 1. 代議員選挙について

- ・ 公示（ホームページ掲載、郵送、会員一斉メール配信）：平成 26 年 9 月 8 日
- ・ 選挙人名簿作成日（入会および異動届期限）：平成 26 年 10 月 10 日
- ・ 投票要領等の郵送：平成 26 年 11 月 28 日
- ・ Web 投票練習期間：平成 26 年 12 月 1 日～12 日  
練習投票率 13.9%～20.7%（13 地区平均 17.0%）  
書面投票申出は 4 件。不具合の内容を確認したところ、PC 環境に起因すると思われる方 3 名が書面投票となった。  
また、会員マイページの ID・パスワードと混同されての問合せが 10 件程度あった。
- ・ Web 投票期間：平成 27 年 1 月 13 日～27 日  
選挙人数 7,943 名  
被選挙人数 7,870 名（2 期連続代議員を除くため）  
投票者総数 1,726 名  
投票率 18.9% ～29.7%（13 地区平均 21.7%）  
※前回（平成 23 年 1 月）マークシート式代議員選挙投票率は 39.5%
- ・ 開票：平成 27 年 1 月 29 日 11 時～  
開票立会人 有森直子先生（聖路加国際大学）
- ・ 新代議員名簿の理事会への提出：平成 27 年 2 月 27 日（＝代議員就任日）  
各地区の定数に従い、合計 264 名の代議員を選出した。

### 2. 役員候補者選挙について

- ・ 公示（ホームページ掲載、郵送、新代議員一斉メール配信）：平成 27 年 3 月 2 日
- ・ 投票要領等の郵送：平成 27 年 3 月 2 日
- ・ Web 投票練習期間：平成 27 年 3 月 4 日～10 日  
練習投票率 理事候補者選挙 43.0%、監事候補者選挙 40.2%  
書面投票申出は 1 件。不具合の内容を確認したところ、PC 環境に起因するため書面投票として受け付けた。
- ・ Web 投票期間：平成 27 年 3 月 16 日～29 日  
選挙人数 264 名  
被選挙人数 264 名  
投票者総数 理事候補者選挙 188 名、監事候補者選挙 177 名  
投票率 理事候補者選挙 71.2%、監事候補者選挙 67.0%  
※前回（平成 25 年 3 月）Web 投票式理事候補者選挙の投票率は 70.3%
- ・ 開票：平成 27 年 3 月 30 日 11 時～  
開票立会人 安梅勅江先生（筑波大学）
- ・ 役員候補者名簿の理事会への提出：平成 27 年 5 月 10 日（平成 27 年第 1 回理事会）

公益社団法人日本看護科学学会 平成26年度委員会名簿および分掌事項

委員会	役職	氏名	会務分掌	委員会開催数
総務	委員長	高橋 眞理 和住 淑子 藤井 徹也	・会員管理 ・入会審査 ・学会事務所の運営（総務会にて検討）	入会審査8回 (H26.4/8～5/6,5/8～5/16, 6/17～6/26,8/22～8/29,9/2, 10/6～10/10,11/17～11/25, H27.2/4～10)
	委員	萱間 眞美 吉沢 豊予子 浅野 みどり 和泉 比佐子 牛久保美津子 遠藤 淑美 大久保 暢子 佐伯 圭一郎 佐伯 由香 酒井 明子 佐藤 紀子 諏訪 さゆり 竹崎 久美子 田中 美智子 西川 浩昭 西村 真実子 野地 有子 林 千冬 眞嶋 朋子 三木 明子 宮本 有紀 山崎 あけみ 吉田 俊子 小野 智美	・学会誌の完全オンライン化の実施と年1回の学会誌（冊子）発行（平成26年のみ） ・学会誌への投稿の促進 ・論文電子化に伴う著作権の整備（機関リポジトリへの対応） ・査読者の質向上を目的としたセミナー ・査読システムの改良 ・表彰論文選考への参画	1回 (H26.11/29)  国際文献社との打合せ2回 (H26.7/14,H27.1/19)
和文誌編集	編集長	William L. Holzemer	・英文誌（オンライン版）の出版（年4号） ・査読システムの整備 ・投稿論文促進のための広報活動 ・インパクトファクター向上のための活動 ・和文誌編集委員会との協働 ・表彰論文選考への参画 ・若手研究者支援事業の推進 ・投稿規程の改正	2回 (H26.11/1,H27.3/6)  Web会議1回 (H26.9/1)  Web小会議1回 (H27.1/9)
	委員	グレッグ美鈴 山本 あい子 安部 陽子 石原 逸子 和泉 成子 岡田 彩子 小澤 三枝子 北岡 和代 佐々木美奈子 鈴木 美穂※ 田代 順子 永田 智子 中村 美鈴 野口 眞弓 深井 喜代子 法橋 尚宏 堀内 成子 前田 ひとみ 眞壁 玲子 丸山 昭子 江藤 宏美	※平成27年度就任	
英文誌編集	委員長	吉沢 豊予子 岡谷 恵子 柏木 聖代 河野 あゆみ 高見沢 恵美子 奈良間 美保 西村 ユミ 深堀 浩樹 宮下 光令 跡上 富美	・内外の看護学研究に関する情報の収集、整理、発信 ・研究成果が診療報酬に適切に反映できるような活動の推進	若手研究推進委員会の 常設委員設置の打合せ会 (H26.9/3,9/16)
	委員	中山 洋子 近藤 暁子 近藤 麻理 清水 安子 田代 順子 南 裕子 神原 咲子	・国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築 ・世界看護科学学会事務局業務	1回 (H26.8/7)
研究・学術情報	委員長	中山 洋子 近藤 暁子 近藤 麻理 清水 安子 田代 順子 南 裕子 神原 咲子	・国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築 ・世界看護科学学会事務局業務	1回 (H26.8/7)
国際活動推進	委員長	中山 洋子 近藤 暁子 近藤 麻理 清水 安子 田代 順子 南 裕子 神原 咲子	・国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築 ・世界看護科学学会事務局業務	1回 (H26.8/7)

委員会	役職	氏名	会務分掌	委員会開催数
看護学術用語検討	委員長	小板橋喜久代 大森純子 大島弓子 柏木公一 佐藤和佳子 新田なつ子 山田覚奈	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学術用語に関する現状と展望の検討</li> <li>看護学術用語の維持管理システム構築に向けた検討</li> </ul>	4回 (H26.5/17,9/21,11/9, H27.2/14)
	会計	石丸美奈		
看護倫理検討	委員長	麻原きよみ 安藤広子 小野美喜 小西恵美子 百瀬由美子 八尋道子 三森寧子	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応</li> <li>研究者のモラル向上に向けた活動</li> <li>看護学が関連する倫理的社会的社会事象に対する情報収集・提供と学会としての対応案の検討と社会に向けた見解の発信</li> <li>研究倫理審査における異議申し立てに関する審議</li> </ul>	3回 (H26.8/12,11/30, H27.3/28)
	会計	武田祐子 井上智子 近藤まゆみ 佐久間清美 福田紀子 宮下美香枝 山村美枝 藤屋リカ		
社会貢献	委員長	武田祐子 井上智子 近藤まゆみ 佐久間清美 福田紀子 宮下美香枝 山村美枝 藤屋リカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般市民に向けた活動</li> <li>看護学を通じた社会への貢献およびその方策の検討・普及</li> <li>学術集会開催時の他に社会貢献の実績を残す(市民公開講座、出版等)</li> <li>次世代の育成事業</li> </ul>	2回 (H26.7/6,11/30)
	会計	宮崎美砂子 萱間真美 グレッグ美鈴 上野昌江 大塚真理子 神田清子 谷本真理子 本田彰子		
表彰論文選考	委員長	宮崎美砂子 萱間真美 グレッグ美鈴 上野昌江 大塚真理子 神田清子 谷本真理子 本田彰子	<ul style="list-style-type: none"> <li>和文誌・英文誌投稿論文からの表彰候補論文選考作業の円滑な運営</li> <li>学会としての表彰論文の推薦</li> <li>看護学への功績(学問の体系化等)のある人への表彰についての検討</li> <li>他団体からの表彰に該当する候補者の推薦</li> </ul>	1回 (H26.10/6)  メール審議2回 (H26.8/6~8,H26.9/1~3)
	会計	酒井郁子 清水安子 林直子 藤田冬子 渡辺かづみ 綿貫成明 黒河内仙奈		
広報	委員長	酒井郁子 清水安子 林直子 藤田冬子 渡辺かづみ 綿貫成明 黒河内仙奈	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ(JANS/WANS)の維持・管理・改善</li> <li>学会活動の広報(委員会成果物のHP掲載等)</li> <li>学術集会の広報(プレスリリース等)</li> <li>WANS本部・WANS学術集会の広報</li> <li>学術集会の記録</li> </ul>	1回 (H27.3/26)  メール会議
	会計	田村やよひ 勝原裕美子 佐居由美 掛江直子 隈本邦彦 岩野正史		
研究倫理審査	委員長	田村やよひ 勝原裕美子 佐居由美 掛江直子 隈本邦彦 岩野正史	<ul style="list-style-type: none"> <li>学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査</li> </ul>	メール会議
	外部委員	吉沢豊予子 西村ユミ 河野あゆみ 綿貫成明 濱吉美穂 岩國亜紀子 大澤絵里 鳥本靖子 坂井志織		
若手研究推進委員会	委員長	吉沢豊予子 西村ユミ 河野あゆみ 綿貫成明 濱吉美穂 岩國亜紀子 大澤絵里 鳥本靖子 坂井志織	<ul style="list-style-type: none"> <li>学術会議若手アカデミー委員会のメンバーとなり、国内外の多学問分野の若手研究者と積極的な交流を図る。</li> <li>学術集会の交流集會を定例的に企画・運営し、若手の研究活動の促進に努める。</li> <li>若手研究者向けの研修に関するニーズ把握、及び学術情報や活動を周知する方法を検討する。</li> </ul>	
	会計	山本あい子 武田祐子 麻原きよみ 田中美恵子 佐々木吉子 駒形朋子		
災害看護専門支援	委員長	山本あい子 武田祐子 麻原きよみ 田中美恵子 佐々木吉子 駒形朋子	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害看護活動を支援するために以下の事項について協議及び審議を行う。</li> <li>募金に関する事項</li> <li>広報に関する事項</li> <li>災害看護支援金の申請者等の選定の審査に関する事項</li> <li>その他必要な事項</li> </ul>	2回 (H26.5/10,11/30)  Web会議2回 (H26.5/20,H27/2/7)
	会計	田村やよひ 安酸史子 吉沢豊予子 太田喜久子 西村ユミ 古在豊樹		
学術振興事業検討	委員長	田村やよひ 安酸史子 吉沢豊予子 太田喜久子 西村ユミ 古在豊樹	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の40周年に向けて、公益社団法人としての学術振興の中・長期的活動方針を企画検討する。</li> <li>公益社団法人としての社会貢献に向けた公益事業を検討する。</li> <li>アンブレラ学会として看護学の発展への貢献活動を検討する。(平成27年3月31日をもって活動終了)</li> </ul>	若手研究推進委員会との合同会議1回 (H27.2/21)
	外部委員	高木廣文 野口眞弓 二宮啓子 岡美智代 桑名佳代子		
選挙管理	委員長	高木廣文 野口眞弓 二宮啓子 岡美智代 桑名佳代子	<ul style="list-style-type: none"> <li>理事会からの委嘱により組織し、代議員および役員候補者選挙を行う。</li> </ul>	6回 (H26.8/3,8/20,11/2, H27.1/29,2/26,3/30)
	副委員長			

# 公益社団法人 日本看護科学学会 平成 26 年度事業報告

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

## (1) 第 34 回日本看護科学学会学術集会開催

- ・ 第 34 回日本看護科学学会学術集会 (JANS34) を鎌倉やよい学術集会会長のもと、平成 26 年 11 月 29 日 (土) から 30 日 (日) の 2 日間、名古屋国際会議場にて開催した。
- ・ メインテーマは「看護ケア学の構築を目指す—研究成果を臨床へ」、参加者総数 3,827 名、演題数 882 題 (English session 24 題含む)、交流集会 53 題、ランチョンセミナー 5 件、市民フォーラム「“口から食べる”を支える技術」参加者数約 80 名。

## (2) 第 35 回・第 36 回日本看護科学学会学術集会準備

- ・ 第 35 回日本看護科学学会学術集会 (JANS35) を小山真理子学術集会会長のもと、平成 27 年 12 月 5 日 (土) から 6 日 (日) の 2 日間、広島国際会議場、アステールプラザ、広島市文化交流会館にて開催予定である。メインテーマは「先見・叡智・創成 —時代を拓く看護—」である。
- ・ 第 36 回日本看護科学学会学術集会 (JANS36) を岡谷恵子学術集会会長のもと、平成 28 年 12 月 10 日 (土) から 11 日 (日) の 2 日間、東京国際フォーラムにて開催予定である。

## (3) 和文誌の発行 …電子ジャーナル (J-Stage) 十年 1 回合本版

- ・ 和文誌編集委員会を 1 回 (平成 26 年 11 月 29 日) に開催した。国際文献社と編集委員会打ち合わせを平成 26 年 7 月 14 日、平成 27 年 1 月 19 日に行った。
- ・ 電子投稿での作業を行い、平成 26 年度 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日) の投稿数は、計 70 であった (前年度 75 編)。
- ・ 第 34 巻 (平成 26 年 1 月～12 月) 随時掲載の論文数は、論壇 0 編、総説 0 編、原著論文 14 編、資料 1 編、短報 0 編、研究報告 24 編、その他 1 編の計 40 編であり、論文公開時には会員に向けた一斉メールを配信した (前年度 原著論文 4 編、研究報告 22 編、短報 1 編)。
- ・ 学会誌冊子体の発行は、年 1 回の合体版 (第 34 巻) のみとなり、正会員 8,053 名に頒布した。平成 27 年度以降は、冊子体の頒布は行わず、電子ジャーナルに完全移行し、35 巻冊子体を希望する会員には平成 28 年 3 月以降、会員価格 6,000 円 (税別) にて販売することとなった。
- ・ 投稿数増加と査読作業の効率化を目的に専任査読委員の増員を行った (平成 25 年 4 月現在 171 名、平成 26 年 4 月現在 188 名)。
- ・ 査読者の質向上を目的としたセミナーおよび交流集会を開催した。JANS34 にて、交流集会「研究者のエンパワメントにつながる査読コメントの書き方」を開催し、150 名以上の参加者を得た。第 4 回 JANS セミナーとして「看護研究者を育てるための Peer Review を考える -日本看護科学会誌

編集委員長の立場から」を開催し、220名以上が参加した。

- ・ 学会ホームページの「和文誌投稿論文 Q&A」を更新した。
- ・ 編集作業における出版社のミスによるトラブルに対応した。査読システムおよび編集作業の手順改善を出版社と協議し、再発防止策を実施した。
- ・ 機関リポジトリへの掲載依頼に対応した（1件）。

#### (4) 英文誌の発行 …電子ジャーナル (Wiley)

- ・ Holzemer 編集長来日のもと英文誌編集委員会を2回（平成26年11月1日、平成27年3月6日）、Web会議システムを用いた日本語での編集委員会を1回（平成26年9月1日）、Webによる委員会小会議を1回（平成27年1月9日）開催した。
- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol.11 No.2~4 および Vol.12 No.1 をオンラインで発刊した。
- ・ 平成26年の論文投稿数は237本であった。
- ・ Optional open access が可能となるよう投稿規程を改定した。Open access を希望した場合の著者負担額は、出版社の規定により US\$3,000 である。
- ・ ジャーナル・プロモーションのために、平成26年に優秀賞および奨励賞を受賞した JJNS に掲載された論文各1編をフリーアクセスとした。今後も受賞論文あるいは編集委員会で選んだ論文2本程度を毎年フリーアクセスにしてもらうよう出版社に交渉した。
- ・ JANS34 の English session 発表者77名に JJNS への投稿および若手研究者支援事業への応募を促すメールを発信した。
- ・ 平成27年度投稿分より、非会員の投稿を可能とし、11ページを超過した場合に1ページ10,000円を徴収することとした。
- ・ 平成26年11月2日に啓発活動としてのセミナー “Improving Your Success at Publishing in English in 2014” を開催した。参加者184名で、好評であった。平成27年度の JJNS セミナーは大阪で開催することを決定した（平成27年11月7日）。
- ・ 平成26年度より若手研究者支援事業を開始し、2編の支援対象論文を決定した。支援対象論文は、いずれも JJNS に投稿され、1編は掲載可となり、もう1編は査読中である。平成27年度は3編の応募があり、審査中である（4月7日現在）。
- ・ ICN（平成27年6月19日~23日 韓国）において、投稿促進のための準備を行った。
- ・ 平成25年度の impact factor は、0.488 と若干低下した（平成26年7月発表による）。

## (5) 看護学学術振興対策

### ① 看護学学術用語の検討

- ・ 看護学学術用語検討委員会を4回（平成26年5月17日、9月21日、11月9日、平成27年2月14日）開催した。
- ・ 継続的な学術用語検討システムの組織案を検討し、その実際的な機能についてモデル作業（新規用語の検討、既存用語の検討）を行い、その作業の進め方、流れについて確認した。
- ・ JANS34にて交流集会を企画し、組織案とモデル作業の実際について紹介するとともに、会員との意見交換を行った。

### ② 国際活動の推進（世界看護科学学会を含む）

#### 国際活動推進委員会

- ・ 国際活動推進委員会を平成26年8月7日に開催し、平成26年度の活動計画と国際活動推進委員会の課題について検討した。
- ・ 異文化データベースの見直しと国際看護に関わる専門職者のネットワーク形成を目的として、JANS34（11月30日）において、「How Japanese nursing can cope with globalization— Discussion of “Data base of nursing for different cultures” at JANS home page—」をテーマに、交流集会（English session）を開催し、約60名の参加があった。国際看護学の担当教員や国際活動に携わっている会員等とグループ討論を行い、活発に意見交換をした後、各グループの代表が英語で討論内容を報告した。討論によって、データベースの検討に生かすことができる成果を得ることができた。
- ・ 第1回グローバルセミナーを「Developing a successful transcultural research proposal」をテーマとし、Dr. Aliecia Matthews と Dr. Yoko Shinpuku を講師に招いて、12月1日に聖路加国際大学で開催した。セミナー開催時期がJANS34直後であったが60名が参加し、活発な討論が行われた。
- ・ 看護学のグローバルスタンダードや国際活動のあり方については、検討を重ねた結果、看護系大学（博士課程）がどのようにグローバル化に対応しているか等を明らかにするための調査票を作成した。現在、情報収集の方法を検討している。

#### 世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science : WANS）

- ・ 国際活動推進委員会は、JANSからWANS理事会の理事長（Chairperson, Board of Directors）を出し、WANS事務局を担っている。第4回WANS学術集会は、平成27（2015）年10月14日～17日にIris Meyenburg-Altwarz氏を大会長としてドイツHannoverにて開催することになった。テーマはConnecting Worldsとして、ウェブサイト上で抄録を募集している。第4回WANS学術集会では、プログラムのScience Committeeとして南裕子WANS理事長と中山洋子JANS国際活動推進委員会委員長が入っている。

- ・ 理事長のあいさつをはじめ、WANS のホームページを更新し、新たな会員組織拡大に向けて広報活動している。
- ・ WANS 理事長の任期が平成 27（2015）年で終わるので、次期理事長の選出と第 5 回 WANS 学術集会の大会長・開催地の決定が課題となっている。

### ③ 看護倫理の検討と啓発

#### 看護倫理検討委員会

- ・ 看護倫理検討委員会を 3 回（平成 26 年 8 月 12 日、11 月 30 日、平成 27 年 3 月 28 日）開催した。
- ・ 日本看護科学学会における学術活動の利益相反に関する指針（案）、および日本看護科学学会における学術活動の利益相反に関する指針の細則（案）を作成した。学会員からのパブリックコメントを求め、コメントに基づき修正した。また、会員の理解を促進し、スムーズな運用につなげるために利益相反に関する Q&A を作成した。
- ・ 学術集会において、若手研究者のための研究倫理に関する交流集会を企画・実施した。
- ・ 看護学研究における研究倫理審査の種類と基準、審査体制のあり方について、国内外の文献・資料の検討と専門家へのヒヤリングの分析結果を報告書にまとめた。

#### 研究倫理審査委員会

- ・ 1 件の申請があった。簡易審査に該当したため、メール会議において承認した。

### ④ 研究成果の蓄積と活用

- ・ 看護系学会等社会保険連合（看保連）に参加し、看保連の情報を会員に提供した。
- ・ 看保連の研究助成に当該学会から助成研究の 1 名推薦を行った。推薦研究が採択された。

### (6) 学術研究論文の表彰

- ・ 第 1 回委員会（メール審議）平成 26 年 8 月 6 日～8 日にて、平成 26 年度 表彰論文選考の方針を決定した。
- ・ 第 2 回委員会（メール審議）平成 26 年 9 月 1 日～9 月 3 日にて、優秀賞候補 4 論文（和文 3 論文、英文 1 論文）および奨励賞候補 4 論文（和文 3 論文、英文 1 論文）を絞り込み、審査リストを作成した。これらについて、平成 26 年 9 月 10 日に全代議員 202 名に文書及びメールにて採点を依頼した。10 月 3 日までに返信された 60 通について評価点の集計を行った（回収率 29.7%）。
- ・ 第 3 回委員会（対面及び Web 会議）平成 26 年 10 月 6 日にて、集計結果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞 2 編、奨励賞 2 編を決定した。理事会（平成 26 年 10 月 13 日）に報告

し、承認を得た。

#### 【優秀賞】

(原著論文) 中村幸代, 堀内成子, 柳井晴夫 (2013) : 妊婦の冷え症と微弱陣痛・遷延分娩との因果効果の推定—傾向スコアによる交絡因子の調整—、日本看護科学会誌、33(4)、3～12.

#### 【優秀賞】

(original article) Kiyomi ASAHARA, Wakanako ONO, Maasa KOBAYASHI, Junko OMORI, Yumiko MOMOSE, Hiromi TODOME and Emiko KONISHI (2013) : Ethical issues in practice : A survey of home-visiting nurses in Japan, Japan Journal of Nursing Science, 10(1), 98～108.

#### 【奨励賞】

(研究報告) 平野優子, 山崎喜比古 (2013) : 侵襲的人工呼吸器を装着した筋萎縮性側索硬化症患者の病い経験—ライフ・ライン・メソッドを用いた心理的状态のたどる過程と関連要因—、日本看護科学会誌、33(2)、29～39.

#### 【奨励賞】

(original article) Yoshino WATANABE, Makoto OE, Yukie TAKEMURA, Minako SASAKI, Mami ONISHI, Katsuya KANDA and Hiromi SANADA (2013) : Four factor Research Awareness Scale for Nurses in Japanese: Instrument development study, Japan Journal of Nursing Science, 10(2), 232～241.

## (7) 学会組織の強化・発展

### ① 若手研究者育成のための新規事業

- ・ 若手研究推進委員設置の打合せ会を2回(平成26年9月3日、9月16日)開催した。
- ・ 第4回理事会の承認、平成26年11月社員総会への報告により常設委員会として、若手研究推進委員会を設置した。さらに若手研究者の緩やかな研究に関連するネットワークとして、JANS若手の会が発足した。メーリングリストの作成、学術集会交流会活動、およびJANS若手の会オフ会など活発な活動が行っている。活動紹介リーフレットを作成した。

### ② JANS セミナー

- ・ 第4回JANSセミナー「看護論文の質向上のためのPeer Review Work」を平成26年6月29日(日)14時30分～17時で、ベルサール神田(東京都千代田区)を会場にして開催した。参加者:209名。
- ・ 第5回JANSセミナー「混合研究法(ミックストメソッド)数字の科学と言葉の科学からの臨床研究」を平成27年3月7日(土)10時～16時で、ステーションコンファレンス東京(東京都千代田区)を会場に開催した。会場参加者:163名、Web参加者:216名。

### ③ 学術振興事業の検討

- ・ 若手研究者支援方策（JJNS 若手研究者支援事業、学術集会、交流集会の英語セッション、セミナー等）を検討し、若手研究推進委員会の設置を提案した。
- ・ 学術振興事業検討委員会および若手研究推進委員会の合同会議を1回（平成27年2月21日）開催した。

### ④ 学会誌の電子化

#### 日本看護科学会誌

- ・ 平成26年1月より論文単位でのJ-STAGE搭載となり、随時掲載を行った。
- ・ 平成27年4月より、掲載論文を可能な限り早く共有できるように閲覧制限を廃止し、その旨をホームページにてアナウンスした（平成26年11月25日付）。

#### JJNS

- ・ Online-only journal として年4回発行しており、2,000余りの世界の図書館にオンライン配信されている。

### ⑤ 選挙の電子化

- ・ 代議員選挙および役員候補者選挙を電子投票にて行った。

### ⑥ 委員会等の遠隔会議システムの導入

- ・ 理事会および委員会について、一部Web会議システムを導入した。

### (8) 社会貢献活動

- ・ 活動の継続性、充実を図るため、委員の交代に合わせて委員を増員し、社会貢献委員会を2回（平成26年7月6日、11月30日）開催、メーリングリストを活用してメール審議を重ねた。
- ・ 第1回社会貢献委員会（平成26年7月6日）では、JANS34における企画について、市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェの各担当委員を決め、企画案について審議した。
- ・ 広報活動については、広報委員会との協働、学術集会会長の協力を得て行った。
- ・ 第2回社会貢献委員会（平成26年11月30日）では、ナーシング・サイエンス・カフェ、市民フォーラム演者を交えて、両事業の最終打ち合わせを行った。
- ・ 平成26年11月30日（日）、市民フォーラムは「“口から食べる”を支える技術」をテーマに講演を行い、30代—70代と幅広い年齢層で約80名の参加者が得られた。  
ナーシング・サイエンス・カフェはテーマを「命を救う！食を助ける！看護師たち」として文部

科学省の後援申請を行い、2名の認定看護師による「食べる楽しみを支える看護」「ドクターヘリ フライトナースの役割」のリレートークと、小人数グループによる、摂食・嚥下障害看護認定看護師、救急看護認定看護師、フライトナースとのカフェトークを行った。高校生22名、保護者3名、オブザーバー（学会参加者）25名の参加であった。終了時にアンケートを実施し、両プログラムともにわかりやすく、満足いただける内容であった。

- ・ 平成27年度、JANS35における企画に向けて、文部科学省の後援申請に時間がかかることや、開催校での負担が大きいこと、オブザーバーの希望者が多いことなどについての対応を検討した。

## (9) 広報活動

- ・ 広報委員会を1回（平成27年3月26日）、ほか、メール会議を複数回開催した。
- ・ 学術集会企画委員会との連携強化
  - ① 平成26年4月に企画委員会への申し送りをし、学術集会の企画委員会に3回参加した。
  - ② JANS34に関連した広報活動を行った。（プレスリリースの作成、フライヤーの印刷・配布）
  - ③ JANS34に関連した広報活動におけるメディアの選択については、地元の企画委員から紹介してもらった。
- ・ 社会貢献委員会との連携強化
  - ① 市民フォーラム広報について広報媒体の作成、配布を行った。
  - ② ナーシング・サイエンス・カフェの広報媒体の作成、配布を行った。
- ・ 国際活動推進委員会との連携強化
  - ① 第4回WANS学術集会での広報活動に向け、フライヤーの作成を行った。
- ・ JANS 広報媒体の検討
  - ① 広報活動の対象（若手研究者や高校生）、若手がアクセスしたいと思えるような媒体を検討した。FBなどのSNSを開始することについては、更新者、更新頻度などについて事務所と協議が必要であり、継続課題とした。今後会員のニーズを見極めて対応したい。
  - ② SNS、JANS ホームページを活用した若手研究者のネットワーク構築支援の方法を検討した。
- ・ 学会HPの充実
  - ① 随時内容の更新、整理を行った。「バナー」の整理を行い、「メニュー」と「バナー」の改善案を挙げ、次年度の検討課題とした。
  - ② 学術集会の記録をホームページにアップした。

## (10) 災害看護支援事業（日本看護系学会協議会との共同事業による）

- ・ 災害看護支援事業専門委員会を2回（平成26年5月10日、11月30日）、Web会議を2回（平成26年5月20日、平成27年2月7日）開催した。
- ・ 平成26年度の災害看護支援金による事業助成金申請の募集（募集期間 平成26年2月25日～

4月18日)を行った。19件の応募があり、災害看護支援事業規程第7条並びに応募要項の採択基準に基づいて厳正に審査を行った結果、以下の8件を採択した。

助成金総額は、4,710,000円(290,000～1,000,000円)であった。

①代表・尾山とし子氏

「これから始まる復興と絆、コミュニティ再建のための長期支援 Part2  
～はまってけらいん(集まって)かだつてけらいん(語って)を合い言葉に～」

②代表・大野かおり氏

「兵庫県立大学・宮城大学看護東北プロジェクト  
気仙沼市鹿折地区仮設住宅住民のセルフケア行動推進および健康ハイリスク住民への看護支援方策の検討」

③代表・青木菫子氏

「応急仮設住宅生活が長期化する福島原発事故避難者の健康支援事業」

④代表・塚本都子氏

「通所施設利用者と介護家族の地震に対する意識と対策の現状を踏まえた、施設が実現すべき当事者主体の地域共助力推進に関する統合的協働検討会」

⑤代表・内海奈緒子氏

「東日本大震災被災地の仮設住宅地区における高齢住民に対する健康支援プログラムの長期的効果に関する介入研究」

⑥代表・佐々木久美子氏

「宮城大学看護学生・教職員による南三陸町に在住する高齢者への健康支援活動の充実強化」

⑦代表・北宮千秋氏

「被災者の長期避難を伴う自治体職員への健康相談とリスクコミュニケーション」

⑧代表・川嶋みどり

「在宅におけるケアの有用性を高める」ための人材育成の取り組み

- ・平成26年8月末に事業の進捗状況について中間報告、平成27年3月31日に最終報告の提出を受け、事業が順調に実施されたことを確認した。
- ・本事業は日本看護系学会協議会(JANA)との共催で実施しているため、平成26年度助成事業の最終報告書、収支報告書及び平成26年度助成事業の中間報告書をJANAに提出した。
- ・JANS34において、交流集会「長期的復興支援における災害看護の役割～災害看護支援助成事業から見る成果と課題」をテーマに交流集会を開催した。また同学会の2日間に、支援事業の支援金を集めることを目的にワンコイン募金を実施した。学会参加者のご協力により、総額35,218円が集まった。
- ・平成26年度災害看護支援事業の募金の総額は442,048円が集まった。
- ・平成27年2月25日より平成27年度災害看護支援事業助成申請の募集を開始した(助成予定額70万円)。

- ・ 仙台で開催された国連防災世界会議のパブリックフォーラムにおいて、平成 27 年 3 月 14 日、日本看護系学会協議会主催フォーラムにおいて、日本看護科学学会災害支援事業専門委員会の活動を報告した。

## **(11) 他機関との連携活動**

### **① 日本看護系学会協議会**

- ・ 平成 26 年 6 月 30 日（月）、平成 26 年度総会が日本赤十字看護大学広尾キャンパスで開催され、理事長が出席した。総会において、一般社団法人化の承認が得られた。定款および定款施行細則、役員選出規程等の原案の説明があり、意見交換を行った。
- ・ 平成 26 年 12 月 15 日（月）の臨時社員総会にて、一般社団法人日本看護系学会協議会に移行することが承認された。第 3 回国連防災世界会議パブリックフォーラム「東日本大震災からの復興と生活再建のための看護系学会の活動」への参加呼びかけがあった。
- ・ JANS34 のシンポジウムでは、例年通り、共催団体として支援した。
- ・ 平成 27 年 3 月 19 日に定款認証され、現在登記中と報告を受けた。定款施行細則の承認のための臨時社員総会の連絡を受け、議決権行使書に署名と押印して提出した。

### **② 看護系学会等社会保険連合（看保連）**

- ・ 平成 26 年度は、理事会 7 回、社員総会 1 回、看護技術検討委員会 3 回、診療報酬及び介護報酬のあり方に関する検討委員会 3 回を開催。
- ・ 全国社会保険協会連合会の組織改編に伴い全国社会保険協会連合会看護局（部）長会が平成 26 年 3 月 31 日付をもって退会。
- ・ 平成 27 年 3 月に日本ヒューマン・ナーシング研究学会が加盟。
- ・ 「平成 27 年度介護報酬改定に関する要望書」を作成し、8 月 13 日に厚生労働省に提出。日本在宅ケア学会、日本精神保健看護学会、日本訪問看護財団、日本看護福祉学会からの提案を中心に、地域包括ケアシステムを目指す看護の機能への評価と訪問看護の一部包括支払い化の検討を要望。
- ・ 平成 28 年度診療報酬改定に向けた意向調査を実施。結果を踏まえて、理事会で、平成 28 年度診療報酬改定に向けた看保連の基本方針を立案し、各員会で検討。今後の改定では、在宅復帰率・医療費の削減・在院日数の短縮に寄与するものが重点課題であり、平成 30 年度の診療報酬・介護報酬同時改定に向けた検討も視野に入れる必要性を確認。
- ・ 第 13 回三保連シンポジウムを 9 月 9 日に開催。テーマは「医療と介護の連携」で、看護の立場から、看保連の林優子理事が医療と看護と介護の連携に向けた課題について発表。
- ・ 平成 26 年度の研究助成件数は 5 件。日本看護技術学会、日本糖尿病教育・看護学会、日本慢性

看護学会、日本小児看護学会、日本循環器看護学会からの推薦を受けた研究に助成。

- ・ 診療報酬の適正評価のための看護ケア技術体系化に向けた研究事業は、二次調査を実施し、その結果を検討してまとめているところである。

### ③ 日本学術会議

- ・ 日本学術会議から提供のあった日本学術会議ニュース・メールを役員に提供した。

### ④ その他の機関

#### 山上の光賞への川嶋みどり氏の推薦・受賞

- ・ 第1回山上の光賞に候補者を推薦し、川嶋みどり氏が「看護・保健部門」の受賞者に選出された。同賞の主旨は日本の広範な健康・医療分野において素晴らしい活躍をしている75歳以上の方々を顕彰することで、2月4日、本会に候補者推薦依頼があり、理事長が川嶋氏の推薦を理事会に提案し承認を得た。  
なお、日本赤十字看護学会、日本看護歴史学会からの推薦書も本会が取りまとめて提出した。
- ・ 3月30日、川嶋氏の「看護・保健部門」での受賞が決定した。5月12日の授賞式には理事長と推薦文執筆者の高田早苗先生が出席した（於：ANA インターコンチネンタルホテル東京）。

### (12) 平成27年選出代議員選挙実施、平成27年選出役員候補者選挙準備

- ・ 選挙管理委員会を6回（平成26年8月3日、8月20日、11月2日、平成27年1月29日、2月26日、3月30日）開催した。
- ・ 代議員選挙を電子投票により次の日程で行った。平成26年9月8日（月）公示、平成27年1月13日（火）～27日（火）投票受付期間、1月29日（木）開票。
- ・ 役員候補者選挙を電子投票により次の日程で行った。平成27年3月2日（月）公示、3月16日（月）～29日（日）投票受付期間、3月30日（月）開票。

貸借対照表  
平成 27年 3月 31日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	100,906,066	91,908,366	8,997,700
未収会費	3,030,000	2,500,000	530,000
未収金	274,618	840,000	△ 565,382
たな卸資産	308,761	286,916	21,845
前払費用	2,257,981	2,153,101	104,880
流動資産合計	106,777,426	97,688,383	9,089,043
2. 固定資産			
(1)基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2)特定資産			
選挙積立預金	0	1,445,466	△ 1,445,466
退職給付引当資産	3,919,500	3,112,500	807,000
災害看護支援資産	718,438	1,486,251	△ 767,813
災害支援準備資金	0	3,500,000	△ 3,500,000
特定資産合計	4,637,938	9,544,217	△ 4,906,279
(3)その他固定資産			
什器備品	216,940	261,792	△ 44,852
一括償却資産	178,835	105,545	73,290
電話加入権	72,030	72,030	0
保証金	1,400,000	1,400,000	0
長期前払費用	0	105,000	△ 105,000
その他固定資産合計	1,867,805	1,944,367	△ 76,562
固定資産合計	6,505,743	11,488,584	△ 4,982,841
資産合計	113,283,169	109,176,967	4,106,202
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費	17,270,000	17,350,000	△ 80,000
未払費用	2,688,732	856,540	1,832,192
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税等	539,900	471,300	68,600
前受金	0	1,458,000	△ 1,458,000
預り金	124,381	112,870	11,511
仮受金	0	10,000	△ 10,000
流動負債合計	20,693,013	20,328,710	364,303
2. 固定負債			
退職給付引当金	3,919,500	3,112,500	807,000
固定負債合計	3,919,500	3,112,500	807,000
負債合計	24,612,513	23,441,210	1,171,303
III 正味財産の部			
1. 基金			
基金	72,926,624	72,926,624	0
2. 指定正味財産			
寄付金	718,438	1,486,251	△ 767,813
指定正味財産合計	718,438	1,486,251	△ 767,813
(うち特定資産への充当額)	(718,438)	(1,486,251)	(△ 767,813)
3. 一般正味財産			
(1)代替基金	0	0	0
(2)その他一般正味財産	15,025,594	11,322,882	3,702,712
一般正味財産合計	15,025,594	11,322,882	3,702,712
(うち特定資産への充当額)	(0)	(4,945,466)	(△ 4,945,466)
正味財産合計	88,670,656	85,735,757	2,934,899
負債及び正味財産合計	113,283,169	109,176,967	4,106,202

貸借対照表内訳表  
平成 27年 3月 31日 現在

(単位：円)

科 目	公益目的事業会 計	収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合計
<b>I 資産の部</b>					
<b>1. 流動資産</b>					
現金預金	0	0	100,906,066	0	100,906,066
未収会費	0	0	3,030,000	0	3,030,000
未収金	274,618	0	0	0	274,618
たな卸資産	308,761	0	0	0	308,761
前払費用	1,715,000	0	542,981	0	2,257,981
他会計短期貸付金	0	0	22,724,305	△ 22,724,305	0
流動資産合計	2,298,379	0	127,203,352	△ 22,724,305	106,777,426
<b>2. 固定資産</b>					
(1)基本財産					
基本財産合計	0	0	0	0	0
(2)特定資産					
退職給付引当資産	0	0	3,919,500	0	3,919,500
災害看護支援資産	718,438	0	0	0	718,438
特定資産合計	718,438	0	3,919,500	0	4,637,938
(3)その他固定資産					
什器備品	79,599	3,507	133,834	0	216,940
一括償却資産	0	0	178,835	0	178,835
電話加入権	0	0	72,030	0	72,030
保証金	0	0	1,400,000	0	1,400,000
その他固定資産合計	79,599	3,507	1,784,699	0	1,867,805
固定資産合計	798,037	3,507	5,704,199	0	6,505,743
<b>資産合計</b>	<b>3,096,416</b>	<b>3,507</b>	<b>132,907,551</b>	<b>△ 22,724,305</b>	<b>113,283,169</b>
<b>II 負債の部</b>					
<b>1. 流動負債</b>					
前受会費	250,000	0	17,020,000	0	17,270,000
未払費用	2,469,658	0	219,074	0	2,688,732
未払法人税等	0	70,000	0	0	70,000
未払消費税等	0	0	539,900	0	539,900
預り金	0	0	124,381	0	124,381
他会計短期借入金	19,760,688	2,963,617	0	△ 22,724,305	0
流動負債合計	22,480,346	3,033,617	17,903,355	△ 22,724,305	20,693,013
<b>2. 固定負債</b>					
退職給付引当金	0	0	3,919,500	0	3,919,500
固定負債合計	0	0	3,919,500	0	3,919,500
<b>負債合計</b>	<b>22,480,346</b>	<b>3,033,617</b>	<b>21,822,855</b>	<b>△ 22,724,305</b>	<b>24,612,513</b>
<b>III 正味財産の部</b>					
<b>1. 基金</b>					
基金	0	0	72,926,624	0	72,926,624
<b>2. 指定正味財産</b>					
寄付金	718,438	0	0	0	718,438
指定正味財産合計 (うち特定資産への充当額)	718,438 (718,438)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	718,438 (718,438)
<b>3. 一般正味財産</b>					
(1)代替基金	0	0	0	0	0
(2)その他一般正味財産	△ 20,102,368	△ 3,030,110	38,158,072	0	15,025,594
一般正味財産合計	△ 20,102,368	△ 3,030,110	38,158,072	0	15,025,594
<b>正味財産合計</b>	<b>△ 19,383,930</b>	<b>△ 3,030,110</b>	<b>111,084,696</b>	<b>0</b>	<b>88,670,656</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>3,096,416</b>	<b>3,507</b>	<b>132,907,551</b>	<b>△ 22,724,305</b>	<b>113,283,169</b>

正味財産増減計算書

平成 26年 4月 1日 から平成 27年 3月 31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益			
特定資産受取利息	888	676	212
受取会費			
正会員受取会費	80,360,000	76,150,000	4,210,000
賛助会員受取会費	300,000	300,000	0
受取会費計	80,660,000	76,450,000	4,210,000
事業収益			
学会誌収益	988,370	3,142,227	△ 2,153,857
学術集会収益	41,373,000	41,798,000	△ 425,000
広告販売収益	6,933,600	13,221,848	△ 6,288,248
事業収益計	49,294,970	58,162,075	△ 8,867,105
受取寄付金			
受取寄付金	144,000	2,009,000	△ 1,865,000
助成金収益	336,800	0	336,800
受取寄付金振替額	1,210,000	1,620,000	△ 410,000
受取寄付金計	1,690,800	3,629,000	△ 1,938,200
雑収益			
受取利息	4,189	5,102	△ 913
著作権料収益	373,600	310,856	62,744
セミナー収益	4,331,000	3,460,000	871,000
懇親会収益	586,000	806,000	△ 220,000
雑収益	0	7,076	△ 7,076
雑収益計	5,294,789	4,589,034	705,755
経常収益計	136,941,447	142,830,785	△ 5,889,338
(2) 経常費用			
事業費			
期首たな卸高	286,916	272,687	14,229
和文誌発行費	9,992,625	8,997,368	995,257
英文誌発行費	16,312,822	18,003,619	△ 1,690,797
期末たな卸高	△ 308,761	△ 286,916	△ 21,845
給料手当	6,034,139	5,609,230	424,909
臨時雇賃金	144,200	268,200	△ 124,000
賞与	412,422	398,817	13,605
退職給付費用	309,147	355,601	△ 46,454
福利厚生費	749,406	698,654	50,752
旅費交通費	3,098,072	3,759,953	△ 661,881
通信運搬費	3,112,696	3,029,623	83,073
減価償却費	17,182	22,949	△ 5,767
消耗品費	848,267	475,929	372,338
修繕費	59,991	58,324	1,667
印刷製本費	12,097,652	9,573,893	2,523,759
慶弔費	3,831	0	3,831
光熱水料費	308,819	276,478	32,341
賃借料	1,771,372	1,653,827	117,545
保険料	2,893	21,720	△ 18,827
諸謝金	1,488,000	1,206,500	281,500
租税公課	910,275	752,948	157,327
支払助成金	4,710,000	1,600,000	3,110,000
委託費	11,245,128	11,675,463	△ 430,335
会議費	1,195,151	1,072,471	122,680
表彰費	257,070	123,513	133,557
渉外費	30,000	0	30,000
会場費	23,551,845	20,454,095	3,097,750
通勤手当	666,755	575,701	91,054
雑費	1,420,396	1,717,626	△ 297,230
事業費計	100,728,311	92,368,273	8,360,038
管理費			
給料手当	9,497,968	9,033,108	464,860
賞与	664,166	642,255	21,911
臨時雇賃金	117,750	120,750	△ 3,000
退職給付費用	497,853	572,660	△ 74,807
福利厚生費	1,206,842	1,125,114	81,728
会議費	4,235,316	5,035,492	△ 800,176
渉外費	10,789	10,290	499
旅費交通費	848,440	451,690	396,750

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
通信運搬費	2,691,023	1,340,963	1,350,060
減価償却費	169,344	260,704	△ 91,360
通勤手当	1,052,835	927,109	125,726
消耗品費	390,356	543,098	△ 152,742
修繕費	96,609	93,926	2,683
印刷製本費	351,904	96,102	255,802
慶弔費	6,169	0	6,169
光熱水料費	497,323	445,241	52,082
賃借料	2,852,621	2,663,325	189,296
保険料	4,657	4,784	△ 127
諸謝金	0	211,603	△ 211,603
租税公課	22,398	22,049	349
支払負担金	150,000	280,000	△ 130,000
委託費	3,569,320	3,092,627	476,693
資格喪失者会費	1,650,000	970,000	680,000
懇親会費	961,514	875,080	86,434
雑費	895,227	877,660	17,567
管理費計	32,440,424	29,695,630	2,744,794
経常費用計	133,168,735	122,063,903	11,104,832
評価損益等調整前当期経常増減額	3,772,712	20,766,882	△ 16,994,170
当期経常増減額	3,772,712	20,766,882	△ 16,994,170
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
その他の経常外収益			
前期たな卸し高修正益	0	79,119	△ 79,119
経常外収益計	0	79,119	△ 79,119
(2) 経常外費用			
固定資産除却損失			
什器備品除却損	0	151	△ 151
経常外費用計	0	151	△ 151
当期経常外増減額	0	78,968	△ 78,968
税引前当期一般正味財産増減額	3,772,712	20,845,850	△ 17,073,138
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	3,702,712	20,775,850	△ 17,073,138
一般正味財産期首残高	11,322,882	△ 9,452,968	20,775,850
一般正味財産期末残高	15,025,594	11,322,882	3,702,712
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金			
受取寄付金	442,048	1,000,150	△ 558,102
特定資産受取利息	139	144	△ 5
受取寄付金計	442,187	1,000,294	△ 558,107
一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	△ 1,210,000	△ 1,620,000	410,000
当期指定正味財産増減額	△ 767,813	△ 619,706	△ 148,107
指定正味財産期首残高	1,486,251	2,105,957	△ 619,706
指定正味財産期末残高	718,438	1,486,251	△ 767,813
III 基金増減の部			
基金受入額	0	0	0
基金返還額	0	0	0
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	72,926,624	72,926,624	0
基金期末残高	72,926,624	72,926,624	0
IV 正味財産期末残高	88,670,656	85,735,757	2,934,899

科 目	公益目的事業会計							収益事業等会計			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	災害看護支援	共通	小計	広告販売事業	連携事業	小計		
I 一般正味財産増減の部												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
特定資産運用益												
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	888	888
受取会費												
正会員受取会費	0	0	0	0	0	40,180,000	40,180,000	0	0	0	40,180,000	80,360,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	300,000	300,000	0	0	0	0	300,000
受取会費計	0	0	0	0	0	40,480,000	40,480,000	0	0	0	40,180,000	80,660,000
事業収益												
学会誌収益	0	988,370	0	0	0	0	988,370	0	0	0	0	988,370
学術集会収益	0	0	41,373,000	0	0	0	41,373,000	0	0	0	0	41,373,000
広告販売収益	0	0	0	0	0	0	0	6,933,600	0	6,933,600	0	6,933,600
事業収益計	0	988,370	41,373,000	0	0	0	42,361,370	6,933,600	0	6,933,600	0	49,294,970
受取寄付金												
受取寄付金	0	24,000	120,000	0	0	0	144,000	0	0	0	0	144,000
助成金収益	0	0	336,800	0	0	0	336,800	0	0	0	0	336,800
受取寄付金振替額	0	0	0	0	1,210,000	0	1,210,000	0	0	0	0	1,210,000
受取寄付金計	0	24,000	456,800	0	1,210,000	0	1,690,800	0	0	0	0	1,690,800
雑収益												
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,189	4,189
著作権料収益	0	373,600	0	0	0	0	373,600	0	0	0	0	373,600
セミナー収益	2,968,000	1,363,000	0	0	0	0	4,331,000	0	0	0	0	4,331,000
懇親会収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	586,000	586,000
雑収益計	2,968,000	1,736,600	0	0	0	0	4,704,600	0	0	0	590,189	5,294,789
経常収益計	2,968,000	2,748,970	41,829,800	0	1,210,000	40,480,000	89,236,770	6,933,600	0	6,933,600	40,771,077	136,941,447
(2) 経常費用												
事業費												
期首たな卸高	0	286,916	0	0	0	0	286,916	0	0	0	0	286,916
和文誌発行費	0	9,992,625	0	0	0	0	9,992,625	0	0	0	0	9,992,625
英文誌発行費	0	16,312,822	0	0	0	0	16,312,822	0	0	0	0	16,312,822
期末たな卸高	0	△ 308,761	0	0	0	0	△ 308,761	0	0	0	0	△ 308,761
給料手当	2,893,734	1,277,730	1,472,944	138,465	0	0	5,782,873	93,522	157,744	251,266	0	6,034,139
臨時雇賃金	136,500	0	4,913	2,700	0	0	144,113	87	0	87	0	144,200
賞与	202,350	89,348	93,638	9,682	0	0	395,018	6,373	11,031	17,404	0	412,422
退職給付費用	151,680	66,974	70,190	7,258	0	0	296,102	4,777	8,268	13,045	0	309,147
福利厚生費	367,687	162,353	170,147	17,594	0	0	717,781	11,581	20,044	31,625	0	749,406
旅費交通費	1,490,950	682,901	775,388	128,900	0	0	3,078,139	15,627	4,306	19,933	0	3,098,072
通信運搬費	517,006	184,390	2,292,642	45,406	0	0	3,039,444	50,488	22,764	73,252	0	3,112,696
減価償却費	8,430	3,723	3,901	403	0	0	16,457	266	459	725	0	17,182
消耗品費	136,609	54,379	585,094	52,529	0	0	828,611	13,173	6,483	19,656	0	848,267
修繕費	29,434	12,997	13,620	1,408	0	0	57,459	927	1,605	2,532	0	59,991
印刷製本費	418,208	147,194	11,182,471	142,573	0	0	11,890,446	201,362	5,844	207,206	0	12,097,652
慶弔費	1,880	830	870	90	0	0	3,670	59	102	161	0	3,831
光熱水料費	151,519	66,903	70,115	7,250	0	0	295,787	4,772	8,260	13,032	0	308,819
賃借料	869,104	383,754	402,178	41,586	0	0	1,696,622	27,373	47,377	74,750	0	1,771,372
保険料	1,419	627	657	68	0	0	2,771	45	77	122	0	2,893
諸謝金	341,021	590,129	467,754	89,096	0	0	1,488,000	0	0	0	0	1,488,000
租税公課	108,009	99,165	450,779	0	0	0	657,953	252,322	0	252,322	0	910,275
支払助成金	0	0	0	0	4,710,000	0	4,710,000	0	0	0	0	4,710,000
委託費	1,626,814	977,069	8,470,255	106,890	0	0	11,181,028	23,473	40,627	64,100	0	11,245,128
会議費	105,399	98,865	937,581	36,632	0	0	1,178,477	16,674	0	16,674	0	1,195,151
表彰費	0	257,070	0	0	0	0	257,070	0	0	0	0	257,070
渉外費	0	0	29,476	0	0	0	29,476	524	0	524	0	30,000
会場費	877,632	247,120	21,965,147	71,321	0	0	23,161,220	390,625	0	390,625	0	23,551,845
通勤手当	320,767	141,635	161,415	15,349	0	0	639,166	10,103	17,486	27,589	0	666,755
雑費	272,748	143,373	928,498	38,051	0	0	1,382,670	22,858	14,868	37,726	0	1,420,396
事業費計	11,028,900	31,972,131	50,549,673	953,251	4,710,000	0	99,213,955	1,147,011	367,345	1,514,356	0	100,728,311



財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1)当法人は、公益法人会計基準（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会）を採用している。

(2)たな卸資産の評価基準及び評価方法  
最終仕入原価法による原価法によっている。

(3)固定資産の減価償却の方法  
法人税法の規定に基づき次のとおりの償却方法を採用している。  
①什器備品・・・・・・定率法によっている。  
②一括償却資産・・・・・・3年間にわたる定額法によっている。

(4)引当金の計上基準  
退職給付引当金・・・・・・当期末退職給与の自己都合要支給額に相当する額を計上している。

(5)消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
選挙積立預金	1,445,466	1,500,271	2,945,737	0
退職給付引当資産	3,112,500	807,000	0	3,919,500
災害看護支援資産	1,486,251	885,099	1,652,912	718,438
災害支援準備資金	3,500,000	0	3,500,000	0
小 計	9,544,217	3,192,370	8,098,649	4,637,938
合 計	9,544,217	3,192,370	8,098,649	4,637,938

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち基金からの充 当額)	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応す る額)
特定資産					
退職給付引当資産	3,919,500	(0)	(0)	(0)	(3,919,500)
災害看護支援資産	718,438	(0)	(718,438)	(0)	(0)
小 計	4,637,938	(0)	(718,438)	(0)	(3,919,500)
合 計	4,637,938	(0)	(718,438)	(0)	(3,919,500)

4. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳  
 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容		金 額
北宮 千秋	被災者の長期避難を伴う自治体職員への健康相談とリスクコミュニケーション	610,000
大野 かおり	兵庫県立大学・宮城大学看護東北プロジェクト 気仙沼市鹿折地区仮設住宅住民のセルフケア行動推進および健康ハイリスク住民への看護支援方策の検討	600,000
合計		1,210,000

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	3,191,396	2,974,456	216,940
一括償却資産	425,020	246,185	178,835

法 人 名：公益社団法人 日本看護科学学会

附 属 明 細 書

1. 重要な固定資産の明細

(単位：円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
特定資産	選挙積立預金	1,445,466	1,500,271	2,945,737	0
	退職給付引当資産	3,112,500	807,000	0	3,919,500
	災害看護支援資産	1,486,251	885,099	1,652,912	718,438
	災害支援準備資金	3,500,000	0	3,500,000	0
	特定資産計	9,544,217	3,192,370	8,098,649	4,637,938
その他固定資産	什器備品	261,792	0	44,852	216,940
	一括償却資産	105,545	302,874	229,584	178,835
	電話加入権	72,030	0	0	72,030
	保証金	1,400,000	0	0	1,400,000
	他会計長期貸付金	0	353,102	353,102	0
	長期前払費用	105,000	0	105,000	0
	その他固定資産計	1,944,367	655,976	732,538	1,867,805

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	3,112,500	807,000	0	0	3,919,500

財産目録  
平成 27年 3月 31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	手元現金 学術集会用小口現金	運転資金として 運転資金として	96,457 57,864
預金	普通預金 みずほ銀行本郷支店 三菱東京UFJ銀行 本郷支店 三菱東京UFJ銀行 本郷支店 ゆうちょ銀行 ゆうちょ銀行 広島銀行 廿日市ニュータウン支店	運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として	76,484,543 11,194,767 7,303,763 3,143,452 2,241,000 384,220
未収会費	平成26年度会費303名分	会員会費未収金	3,030,000
未収金	(株)国際文献社 (株)メテオ	学会誌・講演集販売代金の未収金H26.4～9月追加分及びH26.10～H27.3月分 著作権料H26.4～27.3月分及び包括利用の各著作権使用料	261,540 13,078
たな卸資産	学会誌・学術講演集在庫	学会誌及び学術講演集	308,761
前払費用	(有)プライムアソシエイツ ウィリアム・ルイス・ホルツマー (株)損害保険ジャパン (有)富士見ビル(フジミビル) 弥生(株) 春日土地(株) 事務所賃借更新料 H27.4.1～H27.12.31 ニューロネット(株) AIU損害保険(株)	JJNS編集事務費H27.4.1～H27.12.31 JJNS編集長報酬H27.4～6月分 火災保険料H27.4月分 事務所賃借料H27.4月分 年間サーバ更新料H27.4～H28.3月分 管理業務の用に供している。 SaasBoard Room9Liteコース月額利用料 H27.4月分 個人情報漏洩保険 H27.4.1～H28.3.31	1,215,000 500,000 921 288,000 43,200 105,000 29,360 76,500
流動資産合計			106,777,426
(固定資産)			
特定資産			
退職給付引当資産	普通預金 三菱東京UFJ銀行本郷支店	退職金の引当資産である。	3,919,500
災害看護支援資産	普通預金 三菱東京UFJ銀行本郷支店	指定正味財産を財源とする財産であり、災害看護支援事業のために寄付を受けている。	718,438
その他固定資産			
什器備品	東京都文京区本郷3-37-3 オカムラ両開き書庫他5点	共用財産であり、公益目的事業の用に36.7%、収益事業の用に1.6%、管理業務の用に61.7%供している。公益目的事業の用に供している部分は、公益目的保有財産である。	216,940
一括償却資産	東京都文京区本郷3-37-3	管理業務の用に供している。	178,835
電話加入権	東京都文京区本郷3-37-3	管理業務の用に供している。	72,030
保証金	東京都文京区本郷3-37-3	管理業務の用に供している。	1,400,000
固定資産合計			6,505,743
資産合計			113,283,169

(流動負債)				
	前受会費	平成27～29年度会費 他	平成27年度正会員10,000円×1,698名 平成28年度正会員10,000円×3名 平成29年度正会員10,000円×1名 平成26年度賛助会員 50,000円×5口	17,270,000
	未払費用	日本郵便(株) 和文誌34巻 7,982冊他 案内パンフレット 7,982件 参加費領収書郵送料他  投票用紙郵送料他  (株)升本フーズ 看護倫理検討委員会委員 (株)日本旅行 (株)正文社 (有)プライムアソシエイツ  厚生労働省年金局	学会誌事業で使用した郵送料である。 第35回学術集会事業の郵送料である。 学術振興事業(第5回JANSセミナー)で使用した郵送料である。 管理業務である役員選挙及び口座振替手数料である。 学術振興事業の委員会飲食費である。 学術振興事業の委員交通費である。 学術集会運営委託H26.12～H27.3月 12期 看護学学術用語検討委員会報告書 管理業務である役員選挙に係る翻訳料 (WEB選挙手順書、WEB投票要領) 社会保険料(H27.3月分)	823,122 558,040 55,846  50,774  9,800 89,684 841,474 91,692 32,400  135,900
	未払法人税等	東京都千代田都税事務所	平成26年度法人住民税	70,000
	未払消費税等	本郷税務署	平成26年度消費税及び地方消費税	539,900
	預り金	事務所員 中村コンサルティングオフィス、他2名	給与源泉税・住民税 報酬源泉税	82,729 41,652
	流動負債合計			20,693,013
(固定負債)	退職給付引当金	事務所員8名分	平成27年3月末日要支給額	3,919,500
	固定負債合計			3,919,500
	負債合計			24,612,513
	正味財産			88,670,656

科 目	備考	平成26年度 予算額	平成26年度 決算額	差異
<b>I 事業活動収支の部</b>				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		1,000	888	112
特定資産受取利息収入		1,000	888	112
②会費収入		79,800,000	80,660,000	△ 860,000
正会員会費収入	※1	79,500,000	80,360,000	△ 860,000
賛助会員会費収入	※2	300,000	300,000	0
③学会誌収入(講演集含む)	※3	2,150,000	988,370	1,161,630
④寄付金収入(学術集会分含まず)		1,000,000	466,187	533,813
災害看護支援事業への寄付金	※4	1,000,000	442,187	557,813
著作権啓蒙への寄付金		0	24,000	△ 24,000
⑤雑収入		4,403,000	4,708,789	△ 305,789
受取利息収入		3,000	4,189	△ 1,189
著作権料収入		100,000	373,600	△ 273,600
セミナー収益		4,300,000	4,331,000	△ 31,000
JANSセミナー		3,000,000	2,949,000	51,000
JJNSセミナー		1,300,000	1,363,000	△ 63,000
グローバルセミナー		0	19,000	△ 19,000
⑥学術集会収入	※5	41,064,800	49,349,400	△ 8,284,600
学術集会参加費収入		32,350,000	41,373,000	△ 9,023,000
事前登録会員(1万円)		13,000,000	17,910,000	△ 4,910,000
事前登録非会員(1.2万円)		5,400,000	5,772,000	△ 372,000
事前登録学部生(0.3万円)		150,000	462,000	△ 312,000
当日登録会員(1.2万円)		9,600,000	11,076,000	△ 1,476,000
当日登録非会員(1.4万円)		4,200,000	6,006,000	△ 1,806,000
当日登録学部生(0.3万円)		0	147,000	△ 147,000
寄付金・助成金収入		350,000	456,800	△ 106,800
寄付金収入		350,000	120,000	230,000
助成金収入		0	336,800	△ 336,800
広告販売収入		7,624,800	6,933,600	691,200
企業展示出展料		3,412,800	5,389,200	△ 1,976,400
広告掲載料		2,484,000	680,400	1,803,600
スポンサードセミナー		1,728,000	864,000	864,000
懇親会収入		640,000	586,000	54,000
雑収入		100,000	0	100,000
<b>事業活動収入合計(I a)</b>		<b>128,418,800</b>	<b>136,173,634</b>	<b>△ 7,754,834</b>
2. 事業活動支出				
①事業費支出		81,165,400	87,313,732	△ 6,148,332
学会誌発行費支出		22,910,000	26,305,447	△ 3,395,447
和文誌編集・印刷費支出	※6	7,200,000	8,733,407	△ 1,533,407
和文誌発送費支出	※7	1,830,000	1,259,218	570,782
英文誌編集・印刷費支出	※8	13,880,000	16,312,822	△ 2,432,822
編集活動費支出		3,113,000	2,345,628	767,372
和文誌編集委員会費支出	※9	580,000	19,412	560,588
英文誌編集委員会費支出		2,533,000	2,326,216	206,784
看護学術振興費支出		5,084,100	6,822,096	△ 1,737,996
研究・学術情報委員会費支出		453,100	199,613	253,487
国際活動推進委員会費支出		800,000	365,191	434,809
看護学学術用語検討委員会費支出		854,000	925,357	△ 71,357
看護倫理検討委員会費支出		780,000	515,570	264,430
表彰論文選考委員会費支出		220,000	11,165	208,835
災害看護支援事業委員会費支出		172,000	20,040	151,960
学術振興事業検討委員会費支出		305,000	75,160	229,840
災害看護支援事業助成金支出		1,500,000	1,210,000	290,000
災害支援準備資金助成金支出	※10	0	3,500,000	△ 3,500,000
研究学術活動費支出		2,240,000	2,338,282	△ 98,282
受賞論文表彰費支出	※11	170,000	257,070	△ 87,070
研究倫理審査委員会費支出		120,000	0	120,000
セミナー等開催費支出	※12	1,950,000	2,081,212	△ 131,212
社会的活動費支出		929,000	401,527	527,473
社会貢献委員会費支出	※13	929,000	401,527	527,473
総務費支出		1,147,000	693,208	453,792
総務委員会費支出		400,000	148,120	251,880
広報委員会費支出		747,000	545,088	201,912

科 目	備考	平成26年度 予算額	平成26年度 決算額	差異
学術集会費支出		45,742,300	48,407,544	△ 2,665,244
当年度開催学術集会		43,242,300	45,117,604	△ 1,875,304
会場費支出	※14	20,796,000	22,204,397	△ 1,408,397
会議費支出		735,000	797,847	△ 62,847
旅費交通費支出		1,400,000	584,320	815,680
消耗品費支出		452,000	453,930	△ 1,930
通信運搬費支出 (プログラム送料含む)		1,603,500	1,142,576	460,924
印刷製本費支出 (プログラム印刷含む)	※15	8,405,500	10,857,803	△ 2,452,303
委託費支出		6,880,300	7,391,743	△ 511,443
人件費支出		0	0	0
諸謝金支出		600,000	467,754	132,246
賃借料支出		0	0	0
渉外費支出		140,000	30,000	110,000
雑費支出	※16	1,270,000	225,720	1,044,280
懇親会運営費支出		960,000	961,514	△ 1,514
次年度開催学術集会 (準備期間)		2,500,000	3,289,940	△ 789,940
会場費支出		0	151,375	△ 151,375
会議費支出		50,000	156,408	△ 106,408
旅費交通費支出		500,000	180,630	319,370
消耗品費支出		10,000	84,603	△ 74,603
通信運搬費支出 (パンフレット送料含む)		770,000	994,158	△ 224,158
印刷製本費支出 (パンフレット印刷含む)		1,010,000	473,040	536,960
委託費支出		160,000	517,644	△ 357,644
人件費支出		0	141,250	△ 141,250
諸謝金支出		0	0	0
賃借料支出		0	0	0
渉外費支出		0	0	0
雑費支出	※17	0	590,832	△ 590,832
懇親会運営費支出		0	0	0
②管理費支出		<b>45,412,000</b>	<b>44,343,422</b>	<b>1,068,578</b>
給料手当支出		16,530,000	16,472,445	57,555
通勤費支出		2,440,000	1,706,610	733,390
福利厚生費支出		1,932,000	1,956,248	△ 24,248
退職給付支出		300,000	0	300,000
会議費支出 (学会総会費)		200,000	268,555	△ 68,555
会議費支出 (社員総会費)		2,880,000	2,356,690	523,310
会議費支出 (理事会費)		2,360,000	1,564,848	795,152
委託費支出		4,100,000	3,908,425	191,575
渉外費支出		30,000	10,789	19,211
旅費交通費支出		280,000	420,314	△ 140,314
通信運搬費支出		2,132,000	2,221,787	△ 89,787
消耗品費支出		1,090,000	632,752	457,248
印刷製本費支出		86,000	121,942	△ 35,942
慶弔費支出		50,000	10,000	40,000
光熱水料費支出		660,000	806,142	△ 146,142
賃借料支出		4,580,000	4,623,993	△ 43,993
保険料支出		8,000	7,550	450
諸謝金支出		50,000	0	50,000
租税公課支出	※18	570,000	392,773	177,227
負担金支出		150,000	150,000	0
修繕費支出	※19	50,000	156,600	△ 106,600
選挙費用支出	※20	2,670,000	3,464,561	△ 794,561
資格喪失者会費支出	※21	1,000,000	1,650,000	△ 650,000
雑費支出		1,264,000	1,440,398	△ 176,398
事業活動支出合計 (I b)		<b>126,577,400</b>	<b>131,657,154</b>	<b>△ 5,079,754</b>
事業活動収支差額 (I a)-(I b)		<b>1,841,400</b>	<b>4,516,480</b>	<b>△ 2,675,080</b>

科 目	備考	平成26年度 予算額	平成26年度 決算額	差異
<b>Ⅱ 投資活動収支の部（資金の内部移動）</b>				
1. 投資活動収入（各積立金を取り崩し、それを資金として使用する）				
選挙積立取崩（選挙費用として使用）		2,670,000	2,945,737	△ 275,737
退職給付引当資産取崩		300,000	0	300,000
災害看護支援資産取崩（災害看護支援助成金へ）		1,500,000	1,210,000	290,000
災害支援準備資金取崩収入	※22	0	3,500,000	△ 3,500,000
長期前払費用振替収入（事務所更新料）		105,000	105,000	0
<b>投資活動収入合計（Ⅱa）</b>		<b>4,575,000</b>	<b>7,760,737</b>	<b>△ 3,185,737</b>
2. 投資活動支出（目的のある積立をするために、事業活動の資金を各積立預金に振り替える）				
選挙積立預金		1,500,000	1,500,271	△ 271
退職給付引当金積立		600,000	807,000	△ 207,000
災害看護支援資産事業積立		1,000,000	442,187	557,813
什器備品購入支出		100,000	0	100,000
一括償却資産購入支出		0	214,964	△ 214,964
事務所更新料（長期前払費用）		0	0	0
<b>投資活動支出合計（Ⅱb）</b>		<b>3,200,000</b>	<b>2,964,422</b>	<b>235,578</b>
<b>投資活動収支差額（Ⅱa）-（Ⅱb）</b>		<b>1,375,000</b>	<b>4,796,315</b>	<b>△ 3,421,315</b>
<b>Ⅲ 財務活動収支の部</b>				
1. 財務活動収入				
<b>財務活動収入合計（Ⅲa）</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
2. 財務活動支出				
<b>財務活動支出合計（Ⅲb）</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>財務活動収支差額（Ⅲa）-（Ⅲb）</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>Ⅳ 予備費支出</b>				
		<b>3,000,000</b>	<b>0</b>	<b>3,000,000</b>
<b>当期収支差額</b>		<b>216,400</b>	<b>9,312,795</b>	
<b>前期繰越収支差額</b>		<b>55,929,290</b>	<b>77,072,757</b>	
<b>次期繰越収支差額</b>		<b>56,145,690</b>	<b>86,385,552</b>	

- ※1 平成26年4月1日現在の会員登録数（請求人数7184名）、平成26年度中の新入会・再入会者が852名。
- ※2 (株)日本看護協会出版会2口、(株)医学書院・(株)南江堂・(株)へるす出版・ニューヴェルヒロカワ各1口。
- ※3 販売部数が予算を大幅に下回った。
- ※4 災害寄付金(442,048円)+利息(139円)
- ※5 参加人数が予算を大幅に上回った。(2900名)⇒(3827名)
- ※6 会員の増加が見込みを超えたため印刷部数が増加し予算を上回った。
- ※7 会誌(34巻)の重量が見込みより軽くなったため送料が予算を下回った。
- ※8 編集事務費の超過分を20編と見込んでいたところ、230編あったため予算より210編超過した。
- ※9 メール会議やWeb会議システムの利用により、交通費支出が抑えられたため予算を下回った。
- ※10 平成25年度の災害支援準備資金積立金より支出
- ※11 表彰状ホルダーを追加購入のため超過した。
- ※12 第5回JANSセミナーでWEB受講をおこなったため、委託費（収録、編集、配信）が予算を上回った。
- ※13 市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェなどの会場費が予算を下回った。
- ※14 交流集会、演題の増加により会場設備等が増加したため予算を上回った。
- ※15 事前参加登録者が想定人数を上回り、講演集、プログラム集の印刷部数を増やしたため予算を上回った。
- ※16 コングレスバッグ（4000枚）を企業より寄付されたため予算を下回った。
- ※17 コングレスバッグの製作準備のため素材を事前購入した。
- ※18 収益事業（学会誌販売収入、著作権収入、学術集に伴う広告販売収入）に関わる法人税および法人事業税は0円、法人住民税7万円（均等割のみ）  
消費税課税売上高（学術集会非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など）から簡易課税方式にて計算した消費税931,600円のうち中間納付済み額391,700円（確定納付額539,900円は未納）  
印紙税1,050円、利子源泉税23円
- ※19 購入後4年を経過したため印刷機の年間保守契約を結んだ。
- ※20 Web選挙システム導入時の初期費用ならびに投票要領等の会員送付費用を見込んでいなかったため、予算を上回った。
- ※21 平成25年4月1日付の資格喪失者のうち、平成26年3月31日までに未納会費を納入し再入会したものの以外は損失分として支出に計上される。
- ※22 平成25年度に積立をした災害支援準備資金積立金を取崩して災害支援事業助成金として使用した。

# 災害看護支援事業収支報告書（平成26年度）

平成27年3月31日 現在

（単位：円）

項 目		金 額	
前年度より繰越 計		4,986,251	
繰越内訳	災害看護支援資産 ※1	1,486,251	
	災害支援準備資金 ※2	3,500,000	
収入合計		442,187	
①災害看護支援寄附金収入		442,048	
《内訳》	団体 【詳細は下記】	2件	250,000
	個人	2名	156,830
	募金（第34回学術集会開催時）		35,218
②預金利息		139	
支出合計 【詳細は別紙】		8件	4,710,000
《内訳》	災害看護支援事業助成金支出	1,210,000	
	災害支援準備資金助成金支出	3,500,000	
単年度残高		(4,267,813)	
災害看護支援口（積立金）口座残高（平成27年3月31日現在） ※3		718,438	
《内訳》	三菱東京UFJ銀行	718,438	
	ゆうちょ銀行	0	

※1 災害看護支援資産 災害看護支援事業のための寄付金が財源となっている。

※2 災害支援準備資金 平成26年度の災害支援助成に充てるために日本看護科学学会が積立てた特定資産である。

※3 「特定資産」として一般正味財産とは別途の財産管理（法人化以前の「特別会計」と同様の扱い）をしている。

## 《寄付金収入 団体名》

納入日	団体名	金額
平成26年7月7日	日本精神保健看護学会	200,000
平成26年10月15日	高知女子大学看護学会	50,000

平成26(2014)年度

《助成支援 事業名》

	代表者名	事業名	助成金額
1	塚本 都子	通所施設利用者と介護家族の地震に対する意識と対策の現状を踏まえた、施設が実現すべき当事者主体の地域共助力推進に関する統合的協働型検討会	290,000
2	北宮 千秋	被災者の長期避難を伴う自治体職員への健康相談とリスクコミュニケーション	610,000
3	内海 奈緒子	東日本大震災被災地の仮設住宅地区における高齢住民に対する健康支援プログラムの長期的効果に関する介入研究	570,000
4	佐々木 久美子	宮城大学看護学生・教職員による南三陸町に在住する高齢者への健康支援活動の充実強化	620,000
5	川島 みどり	「在宅におけるケアの有用性を高める」ための人材育成の取り組み	1,000,000
6	青木 菫子	応急仮設住宅生活が長期化する福島原発事故避難者の健康支援事業	360,000
7	大野 かおり	兵庫県立大学・宮城大学看護東北プロジェクト 気仙沼市鹿折地区仮設住宅住民のセルフケア行動推進および健康ハイリスク住民への看護支援方策の検討	880,000
8	尾山 とし子	これから始まる復興と絆、コミュニティ再建のための長期支援 Part2 ～はまってけらいん(集まって) かだってけらいん(語って) を合言葉に～	380,000
			8 件
			4,710,000

# 監査報告書

公益社団法人日本看護科学学会

理事長 田村 やよひ 様

平成 26 年(2014 年)4 月 1 日から平成 27 年(2015 年)3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

## 1. 監査の方法及びその内容

私ども監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表(貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書、財産目録)および収支計算書について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

### (2) 財務諸表の監査結果

財務諸表は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成 27 年(2015 年)5 月 1 日

公益社団法人日本看護科学学会

監事 小島 操子 ⑩

監事 近藤 潤子 ⑩

## 独立監査人の監査報告書

平成27年5月10日

公益社団法人日本看護科学学会  
理事長 田村 やよひ 殿

牧真之介公認会計士事務所

公認会計士 牧 真 之 介 ⑩

### < 財務諸表監査 >

私は、公益社団法人日本看護科学学会の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの平成26年度の貸借対照表及び損益計算書(公益認定等ガイドライン - 5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。)並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表(以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。)について監査を行った。

### 財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽の表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### <財産目録に対する意見>

私は、公益社団法人日本看護科学学会の平成27年3月31日現在の平成26年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

### 財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

### 監査人の責任

私の責任は、財産目録等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

### 財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

### 利害関係

公益社団法人日本看護科学学会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 役員選任案

現役員任期満了（平成27年6月21日）による新役員の選任

### 【理事候補者】

氏名	所属
麻原きよみ	聖路加国際大学
井上智子	東京医科歯科大学
勝原裕美子	聖隷福祉事業団 聖隷浜松病院
鎌倉やよい	愛知県立大学
萱間真美	聖路加国際大学
グレッグ美鈴	神戸市看護大学
酒井郁子	千葉大学大学院
真田弘美	東京大学
高田早苗	日本赤十字看護大学
中山洋子	高知県立大学
西垣昌和	京都大学
西村ユミ	首都大学東京
村嶋幸代	大分県立看護科学大学
山本則子	東京大学
吉沢豊予子	東北大学

(以上15名、五十音順)

### 【監事候補者】

氏名	所属
阿曾洋子	武庫川女子大学
南裕子	高知県立大学

(以上2名、五十音順)

公益社団法人日本看護科学学会 定款 変更案

変更前	変更案	変更の根拠・理由
<p>第5章 役員および理事会</p> <p>(理事会の議事録)</p> <p>第38条 理事会の議事録は、議長が作成し、出席した代表理事及び監事が記名押印の上、これを保存する。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、理事長の変更を決議した理事会の議事録については、他の出席した理事も記名押印する。</p>	<p>第5章 役員および理事会</p> <p>(理事会の議事録)</p> <p>第38条 理事会の議事録は、議長が作成し、出席した代表理事及び監事が記名押印の上、これを保存する。</p> <p><del>2 前項の規定にかかわらず、理事長の変更を決議した理事会の議事録については、他の出席した理事も記名押印する。</del></p> <p>附則 この定款の改正は平成27年6月21日から施行する。</p>	<p>登記について法務局での手続きが「商業登記規則」と統一され、代表理事(理事長)交代の際の議事録の押印も「代表理事」と「監事」のみでよいこととなったため削除する。</p> <p>(監事が出席しない場合は理事長のみが押印)</p>

## 名誉会員の承認について

### 名誉会員についての定款上の規程

第 12 条 名誉会員は、看護学の発展に多大の寄与をした者の中から、理事会及び社員総会の承認を得たものとする。

2 名誉会員は、社員総会に出席し意見を述べることができる。

3 第 1 項の承認について、理事長は、学会総会に報告しなければならない。

第 14 条 会員は、社員総会で定める会費を納めなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、名誉会員は、会費の納入を要しない。

### 名誉会員推薦についての理事会申し合わせ事項

1) 「看護学の発展に多大の寄与をした」ことの解釈・・・次のいずれかに該当すること。

① JANS の学術集会会長、国際学術集会会長を務めた。

② JANS の理事長、もしくは理事を通算 3 期以上務めた。

③ ①、②に相当の働きをしたと理事会が認めた。

④ その他・・・看護学の発展に格段の貢献をしたもの。

2) 本人の同意があること

平成 27 年 6 月社員総会で名誉会員に推薦する会員 (了承を得て履歴等の情報を記載しております)

	金川 克子 氏
略 歴	掲載省略
会 員 歴	1981 年 7 月 25 日～2015 年 3 月 31 日 (通算 34 年)
学術集会会長歴	第 12 回日本看護科学学会学術集会会長 (1992 年)
役 員	理 事 長 1993 年～1995 年
代 議 員 歴	理 事 1981 年～1983 年、1999 年～2001 年、2002 年～2004 年
	評 議 員 1981 年～1983 年、1984 年～1986 年、1990 年～1992 年
	1993 年～1995 年、1999 年～2001 年、2002 年～2004 年
	代 議 員 2007 年～2011 年、2011 年～2015 年

	川嶋 みどり 氏
略 歴	掲載省略
受 賞 歴	2007年 第41回フローレンスナイチンゲール記章受章 2015年 第1回山上の光賞受賞
会 員 歴	1982年12月3日～現在（通算33年）
学術集会会長歴	第15回日本看護科学学会学術集会会長（1995年）
役 員 代 議 員 歴	理 事 1993年～1995年、1999年～2001年 評 議 員 1990年～1992年、1993年～1995年、1999年～2001年 2002年～2004年

	前原 澄子 氏
略 歴	掲載省略
受 賞 歴	2012 年 瑞宝中綬章受章
会 員 歴	1983 年 3 月 26 日～現在 (通算 32 年)
学術集会会長歴	第 4 回国際看護学術集会会長 (2001 年)
役 員 代 議 員 歴	副理事長 1996 年～1998 年 理 事 1987 年～1989 年、1999 年～2001 年 監 事 2007 年～2011 年 評 議 員 1987 年～1989 年、1990 年～1992 年、1996 年～1998 年 1999 年～2001 年 代 議 員 2007 年～2011 年、2011 年～2015 年